

Arcserve UDP 11

製品のご紹介



arcserve Japan 合同会社

2026年8月

Rev.1.0

arcserve®

目次

1. Arcserve UDP の概要とフォーカスエリア
2. 様々なクラウド利用のニーズへの対応
3. セキュリティの確保 & ランサムウェアへの対策
4. ライセンス

1. Arcserve UDP の概要 とフォーカスエリア

Arcserve Unified Data Protection (UDP)

イメージバックアップをベースにArcserve シリーズ
を統合したバックアップソリューション

Arcserve UDP

統合バックアップソリューション

Arcserve Backup

データ保護の大黒柱
頼れるバックアップ

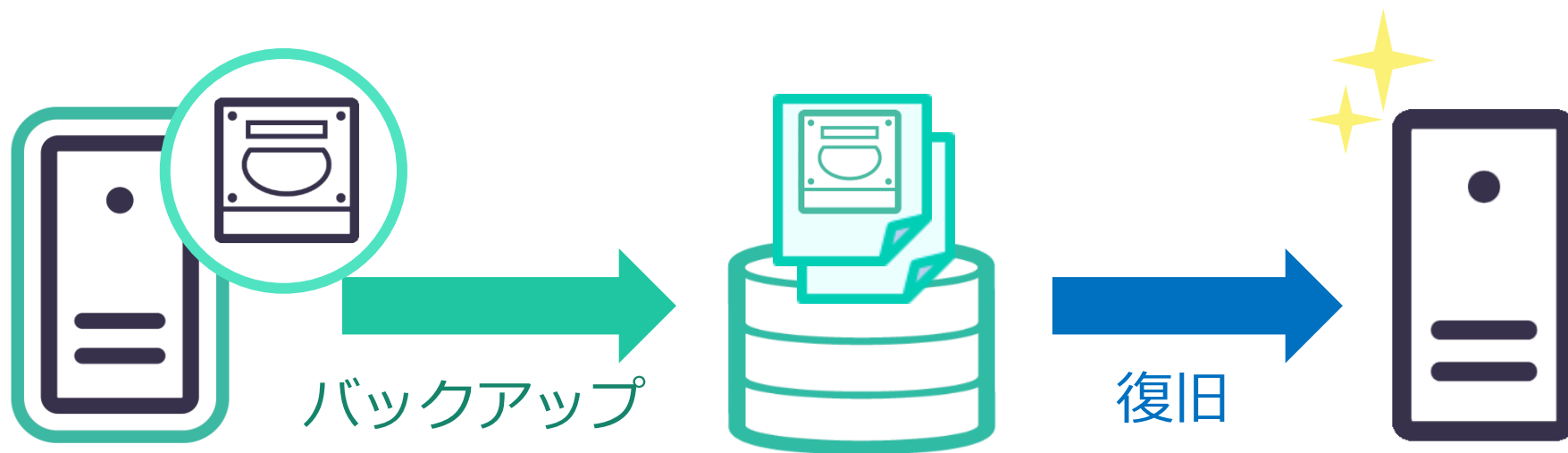
Arcserve Replication/HA

レプリケーションの
デファクトスタンダード

簡単イメージバックアップ

イメージバックアップとは

ファイル単位ではなく、ディスク全体を丸ごと高速にバックアップします。
OSやデータを含むシステム全体をまとめて簡単に復旧できます。
個別のファイル単位での復旧も可能です。



Arcserve UDPは異なる機種への復旧やP2Vも標準サポート！
(物理から仮想への復旧)

Arcserve UDP : 高い顧客満足度！



ITreview

★★★★★

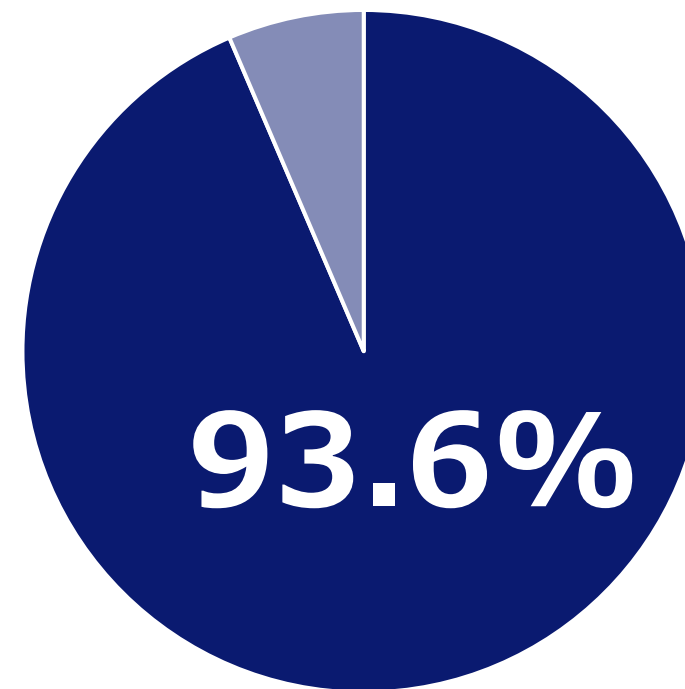
どのような課題解決に貢献しましたか？どのようなメリットが得られましたか？

永久増分バックアップと重複排除機能にてバックアップの時間を以前に比べ半分以下に短縮できた
またデータ容量も半分程度に削減できたため、H/Wコストも削減できた
システム移行の際はバックアップデータからBMRにて移行できるため簡単で一貫した手順で移行が行えた

業種 ソフトウェア・SI 職種 ITアーキテクト 従業員規模 100-300人未満

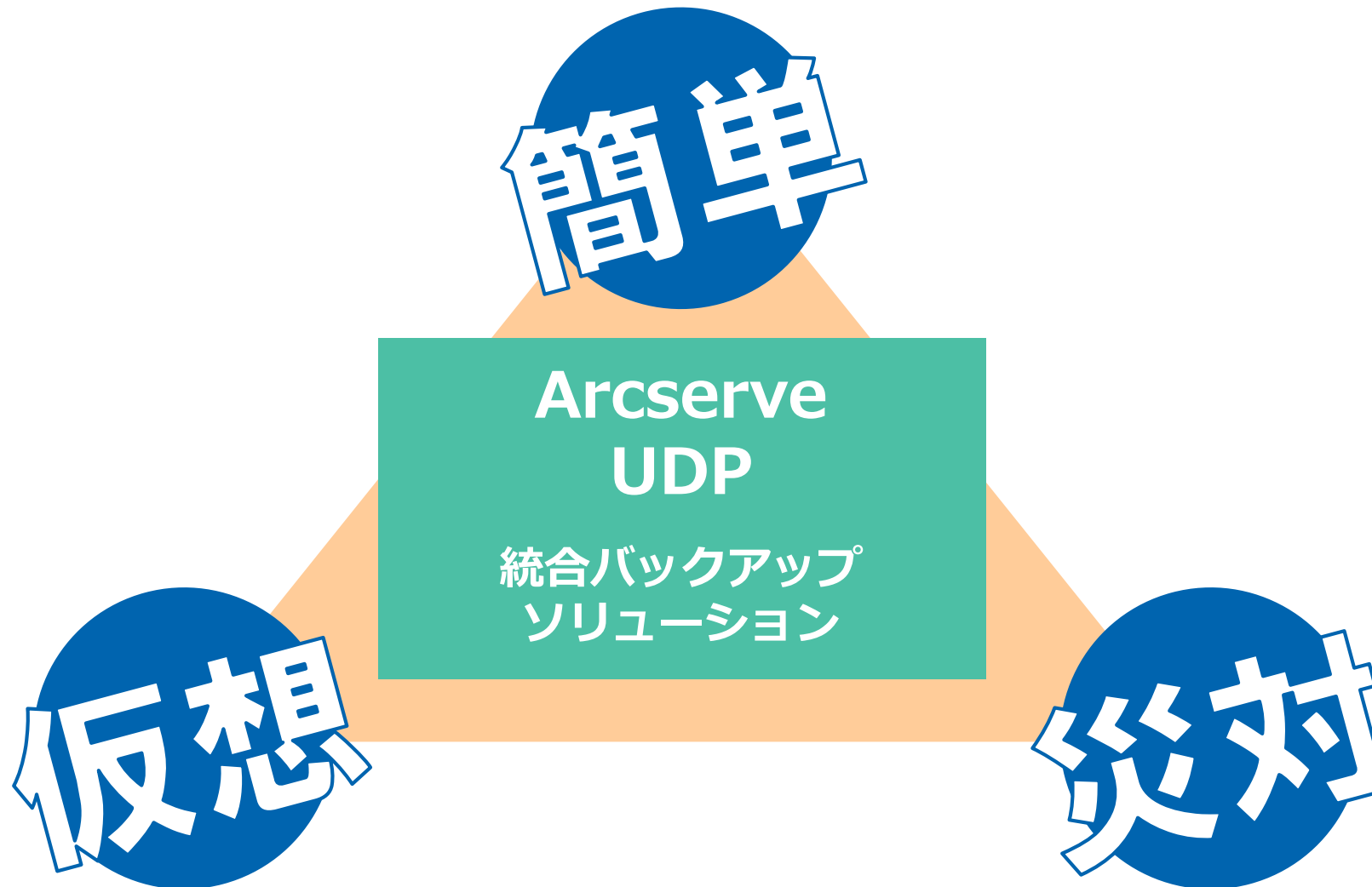
提供元：アイティクラウド株式会社

Arcserve テクニカル サポート満足度



お問合せ終了後のアンケートで、4以上の評価
(5段階評価) をいただいた割合 - 2023年

Arcserve UDP のフォーカス エリア



Arcserve UDP のフォーカス エリア

簡単

簡単！でも 柔軟に バックアップ

簡単なだけでなく、小規模・大規模、物理・仮想・クラウド、Windows・Linux を問わず、柔軟なバックアップやリストアを実現

仮想

仮想化基盤やクラウドに関わる要件をまとめて対応

大規模な仮想化統合基盤やクラウドサービス、仮想基盤に統合できない物理サーバの保護、などもまとめて解決！

災対

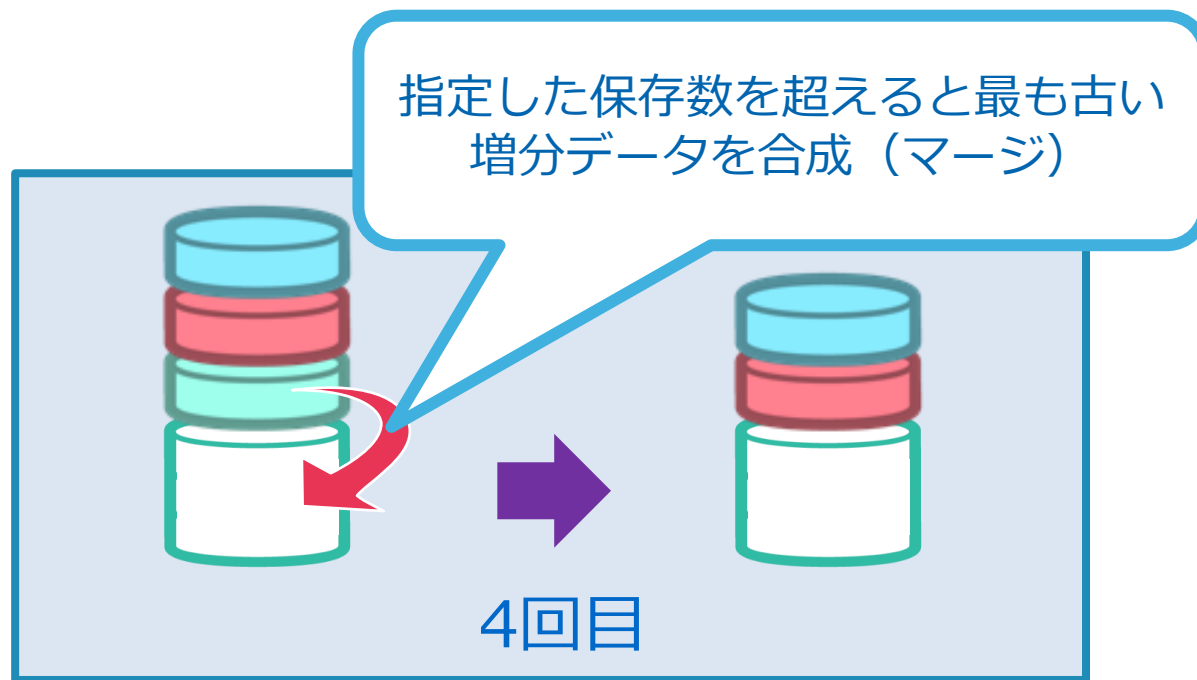
災害やサイバー攻撃への対策を適切なコストで実現

ストレージやネットワークを効率的に利用し、全体コストを抑えてシステムの災害対策を実現

手間いらずのバックアップ運用（継続的な増分バックアップ）

初回のフル バックアップ以降は増分バックアップだけで運用

バックアップデータを3世代保存する場合

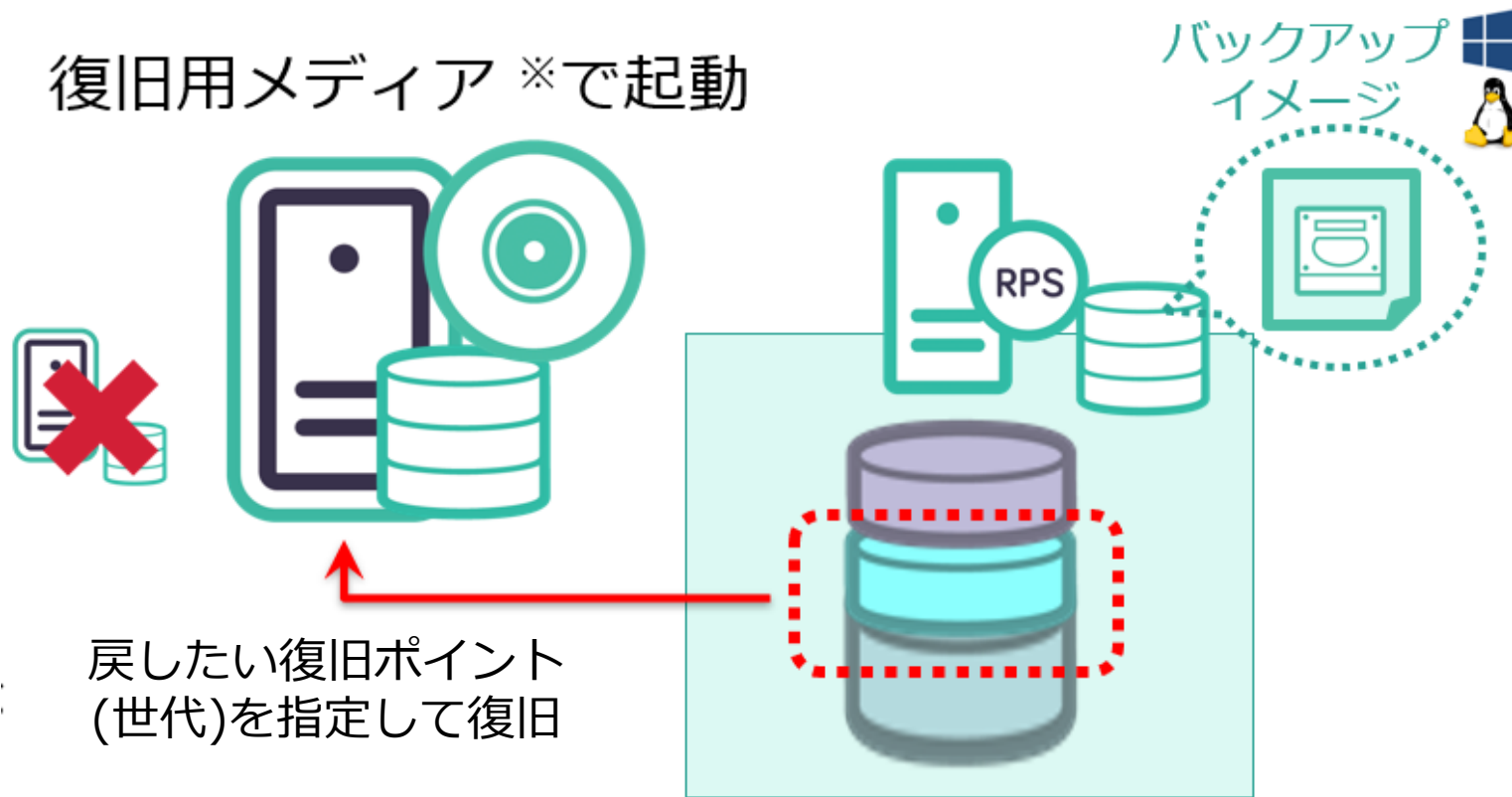


※初期設定では7世代を保存(最大1440世代まで設定可)

2 回目以降フルバックアップの取り直しが不要なため、
バックアップ時間短縮とディスク使用量の節約が可能!!

イメージデータを丸ごと戻すだけの簡単復旧

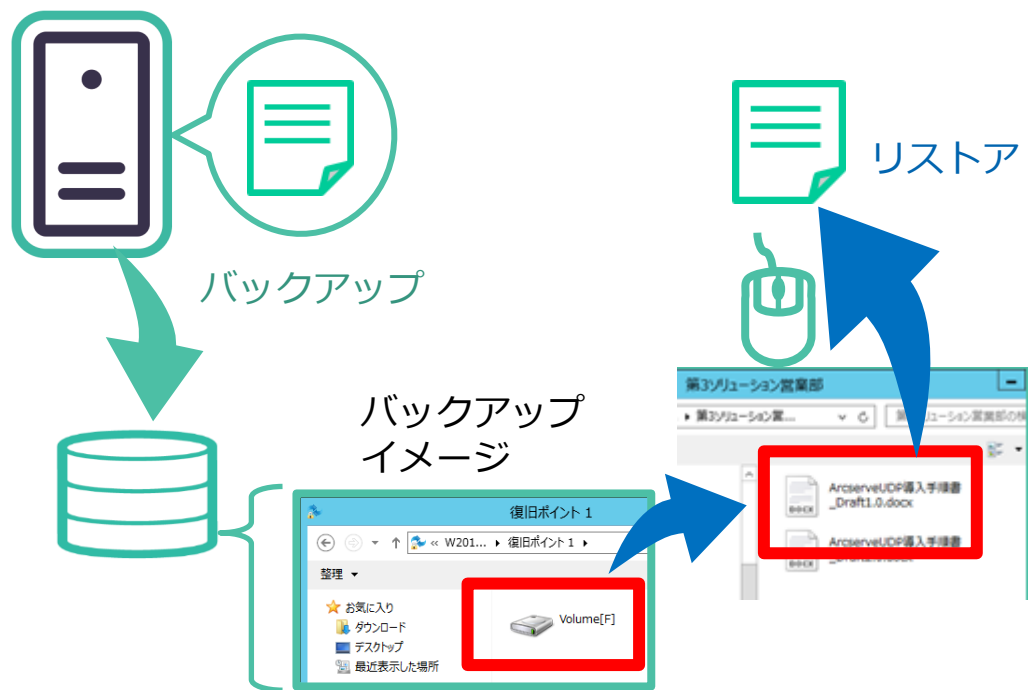
OSやアプリケーションを再インストールする必要なく、
丸ごと戻すだけでシステム復旧



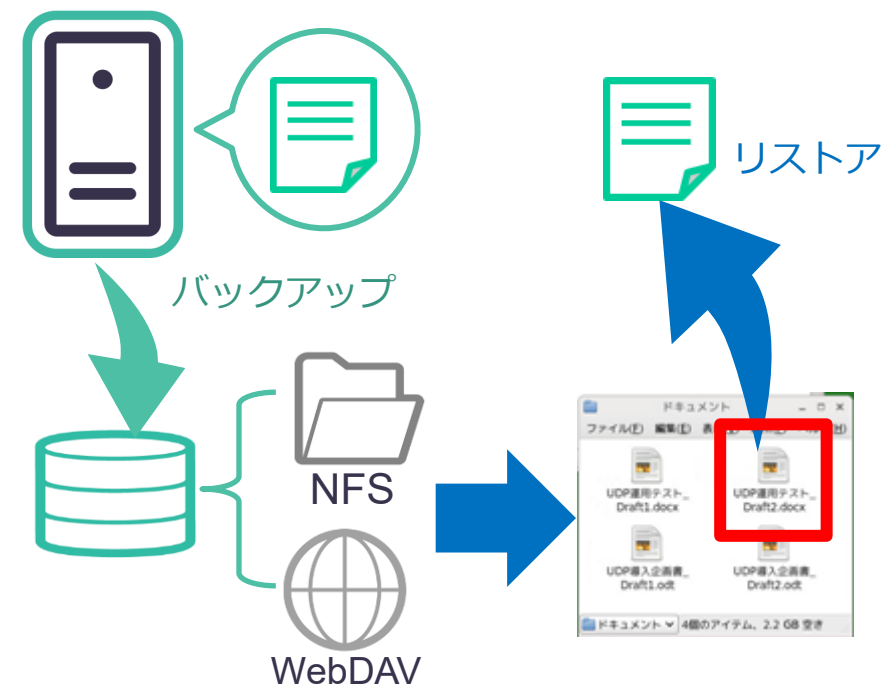
※ドライバの組み込みやネットワーク設定なども復旧作業中に実施可能

ドラッグ & ドロップによる簡単ファイルリストア

Windows 環境



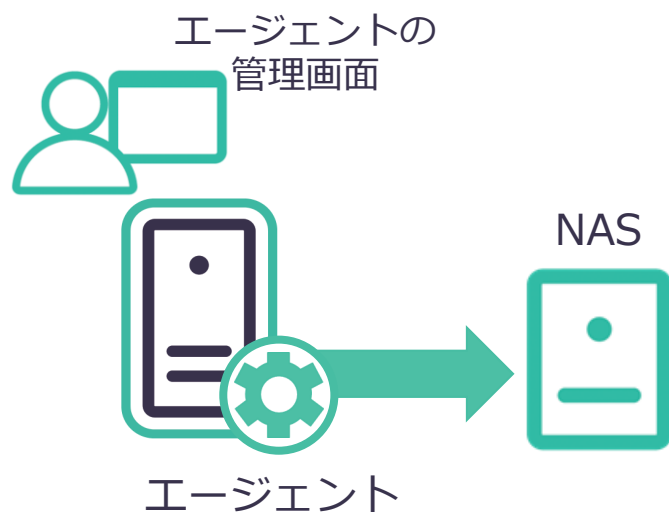
Linux 環境



Windows も Linux も、簡単操作によるファイル リストアを実現

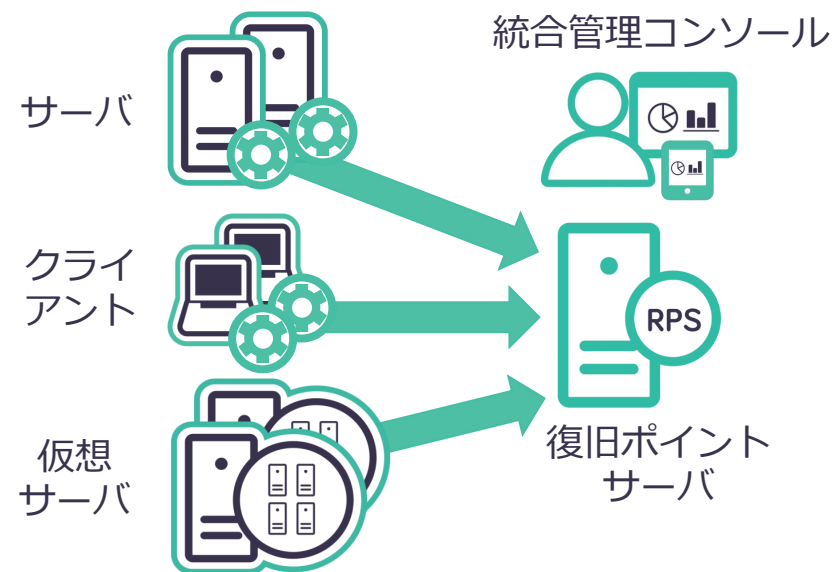
複数サーバ環境でも簡単なバックアップ運用を実現

単体サーバのバックアップ



エージェントだけでバックアップ運用

複数サーバのバックアップ



複数の対象を一元管理で、まとめてバックアップ運用

システム構成の変更に合わせて**拡張可能！！**

統合管理を実現する Arcserve UDP のコンポーネント

Arcserve Unified Data Protection

エージェント

物理・仮想マシンの
バックアップを実行



コンソール (統合管理サーバ)

スケジュール**管理**
および操作**画面**を提供



復旧ポイント サーバ ※

バックアップデータの
格納庫を提供



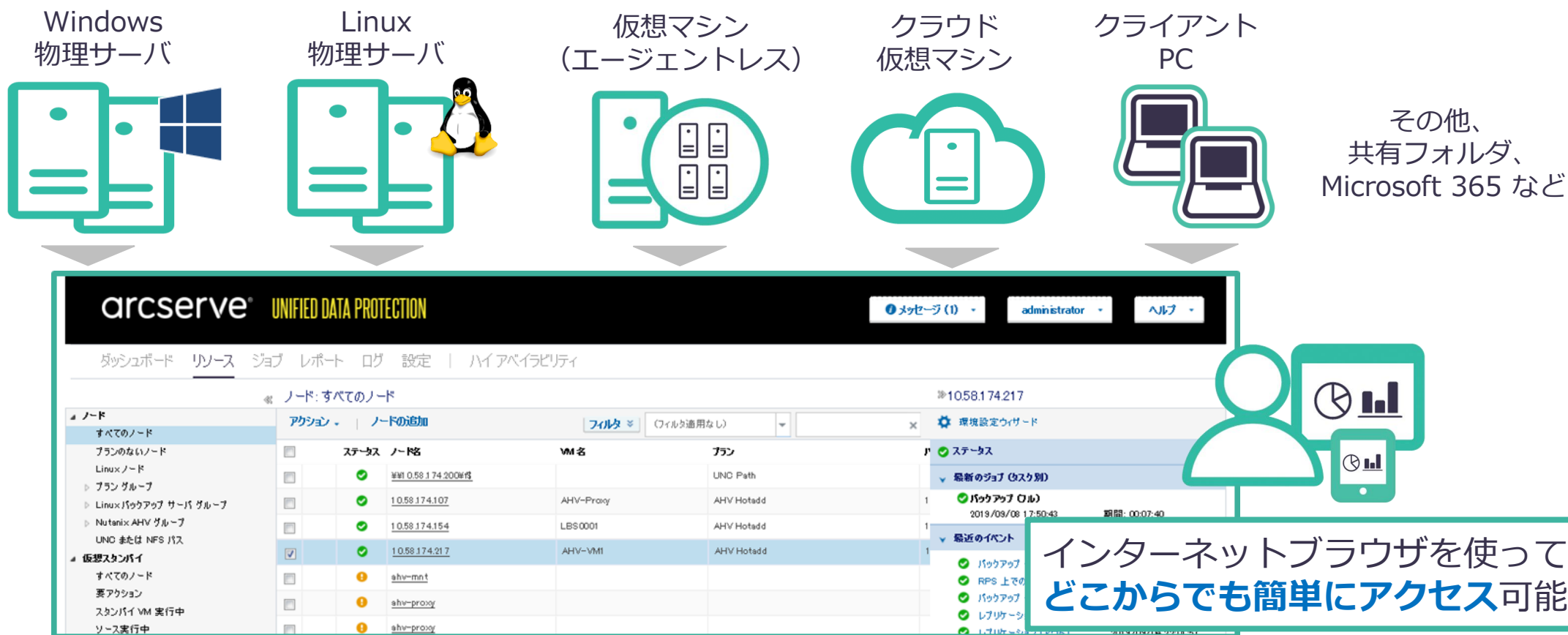
環境に合わせて構成変更が可能

※ 復旧ポイントサーバ
(Recovery Point Server : RPS)

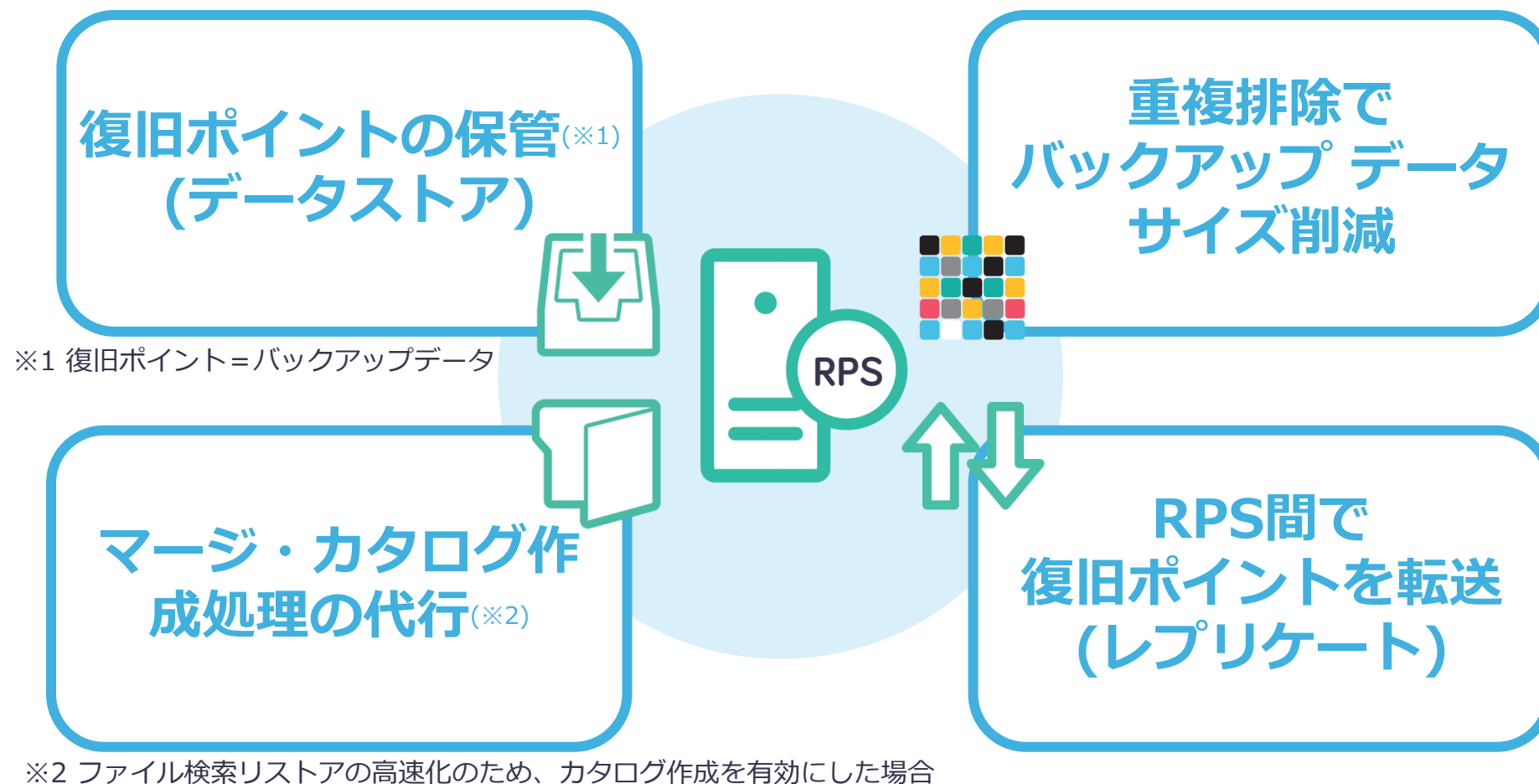
混在環境を一括で統合管理 (Arcserve UDP コンソール)

こんな時に
便利！

- Windows / Linux をまとめてバックアップしたい
- 物理や仮想環境、クラウドのバックアップをまとめて管理したい



バックアップデータを効率よく管理（復旧ポイントサーバ）

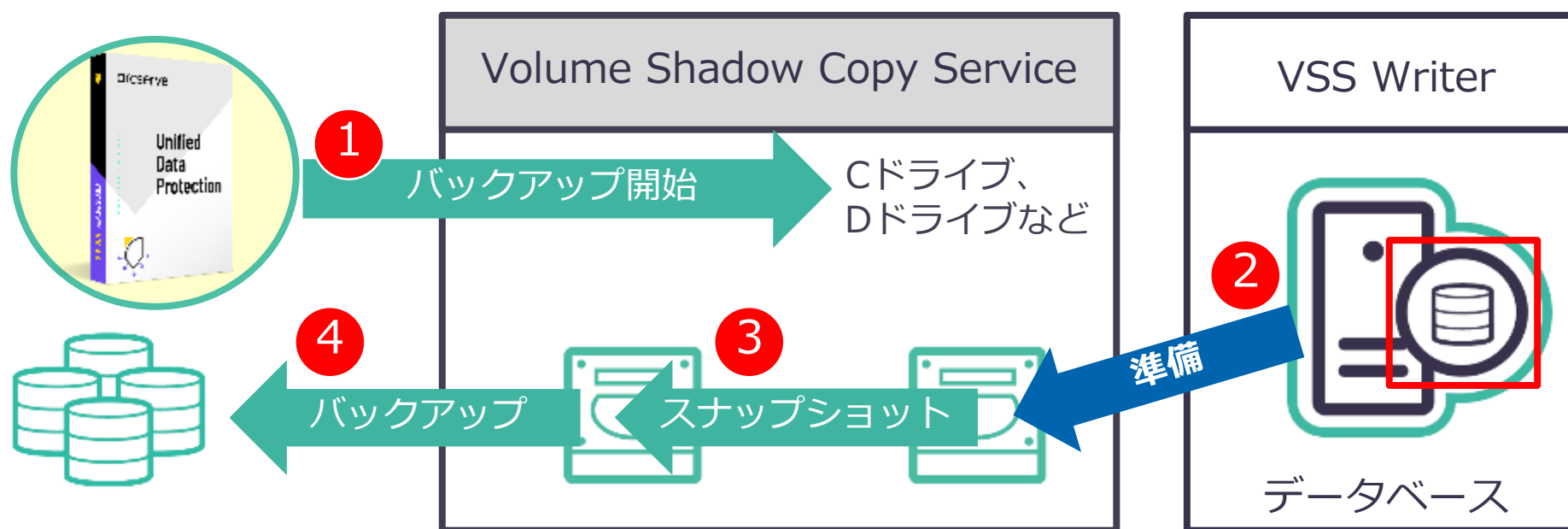


バックアップ サイズの低減と災害対策を実現する高機能なデータ格納庫を提供

稼働中のアプリケーションも簡単にバックアップ

アプリケーションの VSS Writer と連携。サーバ丸ごとバックアップで簡単！

- Microsoft SQL / Exchange / SharePoint 、 Oracle Database (Windows)、 Active Directory



Oracle データベースの詳細バックアップ/リカバリ

Oracle Recovery Manager (RMAN) と連携し、Windows / Linux 上の Oracle データベース を バックアップ/ リストア・リカバリ



エージェントレスで
データベースを保護

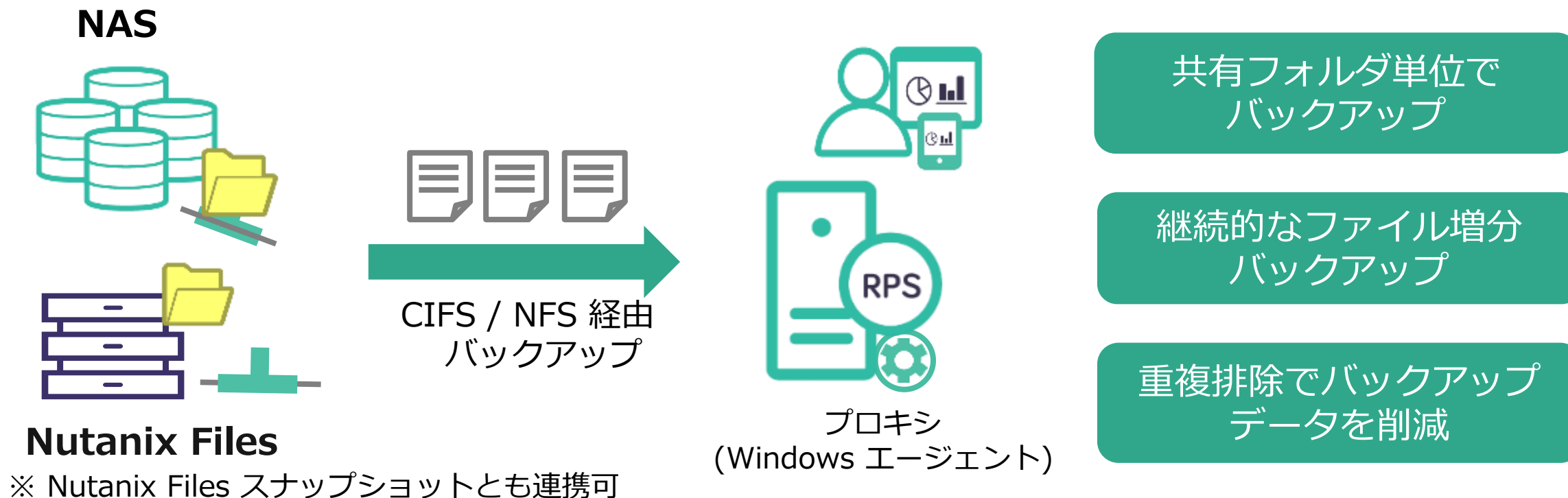
アーカイブログだけの
バックアップや削除が可能

バックアップ時以外の
特定時点へリカバリが可能

※ 日本では Oracle RAC 環境は非サポート、但し Arcserve Backup で RAC 環境をサポート

共有フォルダ (CIFS/NFS) もまとめてバックアップ

エージェントが導入できない NAS やストレージ上のデータをバックアップ



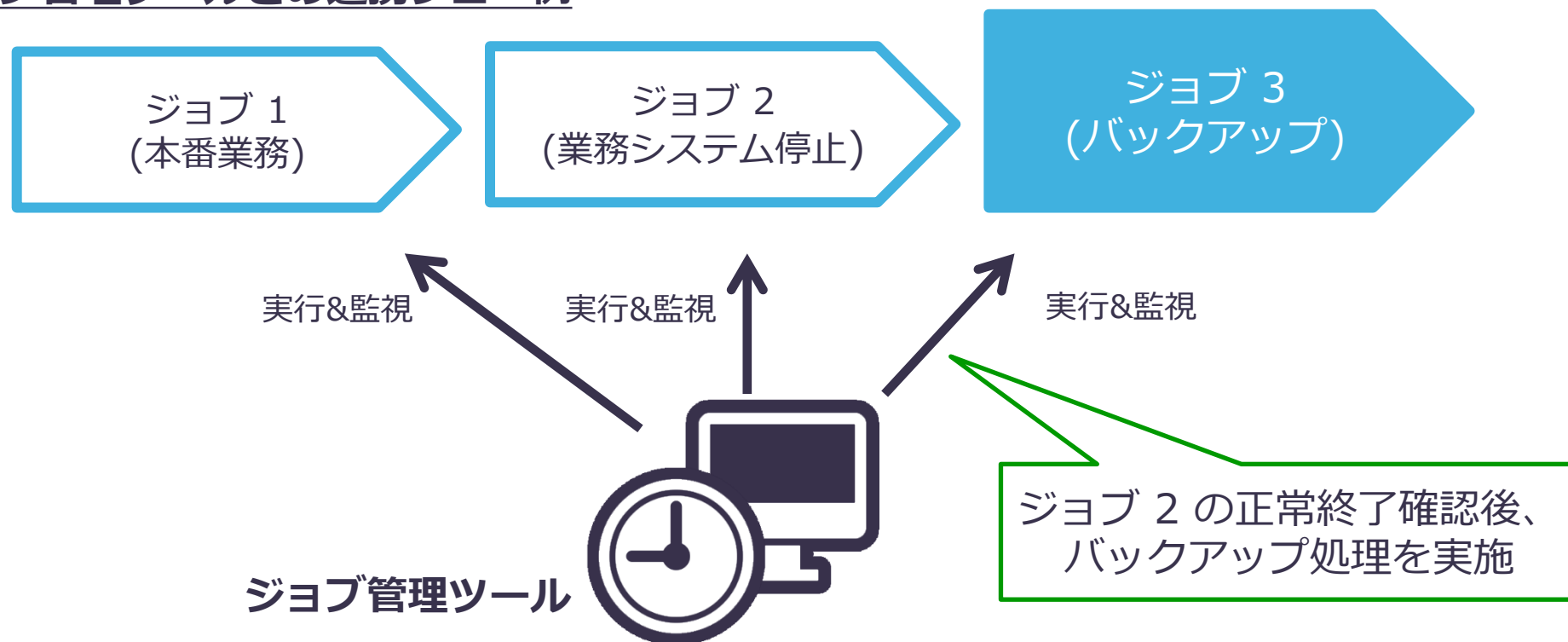
大容量の NAS データも最小化して保存！

コマンドライン インターフェースでジョブ管理ツールと連携

こんな時に
便利！

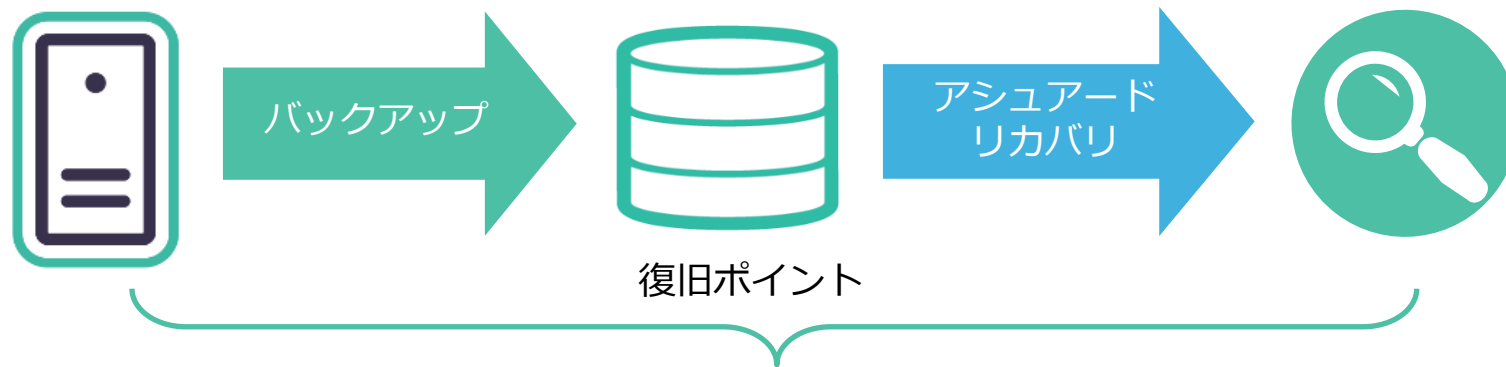
- バックアップ/リストアをスケジュール以外で自動実行したい場合
- ジョブ管理ツールと連携して運用を楽しみたい場合

ジョブ管理ツールとの連携フロー例



バックアップ データ の健全性を自動確認 (アシュアード リカバリ)

バックアップ データがリストア可能であることを手間をかけずに自動で確認



バックアップから確認処理の後始末までを全自動化

バックアップとレプリケート
後のデータを確認

曜日・時間の指定か、
手動で実行

確認結果を
メールで通知

アシュアード リカバリ : 復旧ポイントを確認する2つの方法

インスタントVM方式



インスタントVM

本番ネットワーク
とは分断して起動できる！
確認用ディスク スペース
は不要！

[確認できるポイント]

- システムが起動可能か？
- サービス実行が可能か？
- アプリケーション サービスの整合性は取れているか？
(カスタムスクリプトを利用)

[利用条件]

- インスタントVMの実行条件を満たす物理/仮想OSを含むバックアップ
- インスタントVMの仮想基盤は vSphere / Hyper-V / AHV (Linux VM のみ)

インスタント仮想ディスク方式



インスタント仮想ディスク

仮想環境不要！
確認用ディスク
スペースも不要！

[確認できるポイント]

- ファイル システムの整合性が取れているか？
- ディスクに破損はないか？
 - ✓ chkdsk による確認も可能
- 特定ファイルの読み出しが可能か？
(カスタムスクリプトを利用)

[利用条件]

- Windows のデータ ボリューム、共有フォルダ、Microsoft 365、Oracle RMAN のバックアップ



その他の機能

リソース構成ウィザードによる初期設定の簡略化

物理サーバや仮想マシンなど複数のバックアップ対象の登録やバックアップ先など必要な設定をウィザード形式で順に設定するだけで、初心者でも簡単に設定可能！

柔軟なバックアップスケジュール設定

- 指定した曜日や日次/週次/月次のバックアップスケジュールが設定可能
- 週次や月次、曜日指定のスケジュールを組み合わせた柔軟なスケジュール設定が可能

Active Directory のオブジェクトレベルリストア

- 誤って消してしまったActive Directoryのユーザやコンピュータ アカウントなどを個別のオブジェクト単位でリストア可能
- オンラインで Active Directory オブジェクトのリストアが可能。業務への影響を最小化

Linux 環境でも簡単 GUI 操作

Linux 環境でも Web ブラウザの GUI からマウスを使った直感的な操作が可能

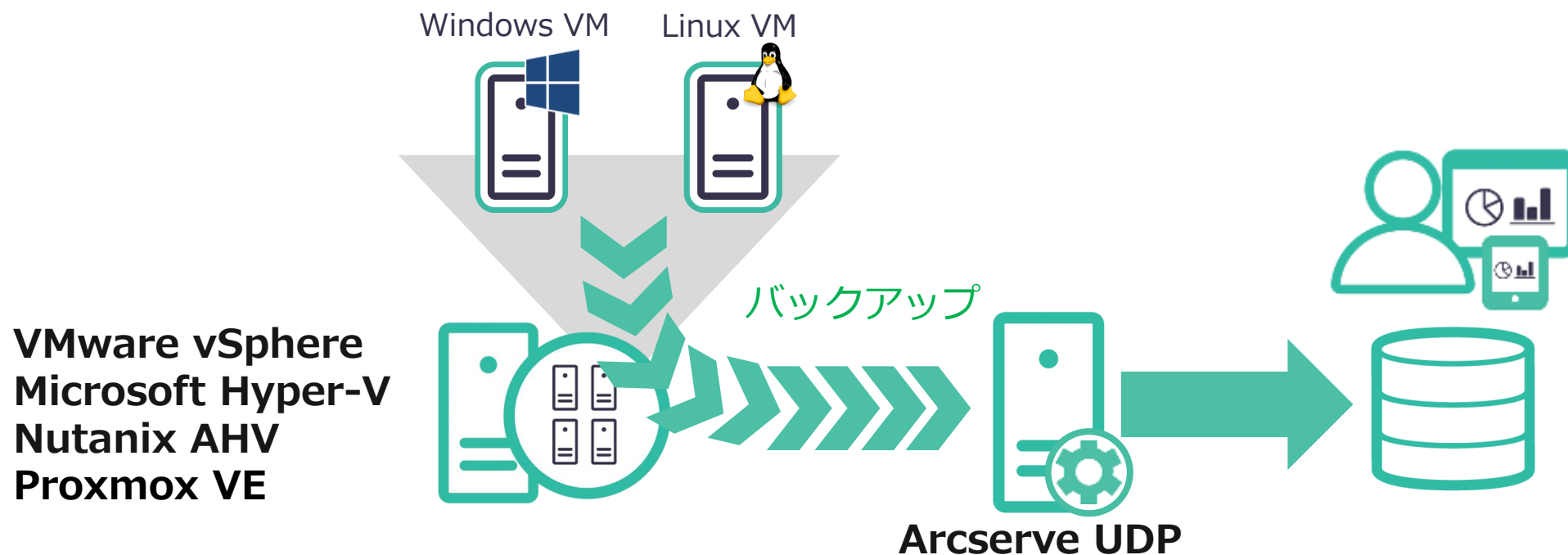
Arcserve UDP のフォーカス エリア



仮想マシンに負担をかけないエージェントレス バックアップ

VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Nutanix AHV ※、Proxmox VE
の仮想マシンを エージェントレス でバックアップ

UDP 11 新機能

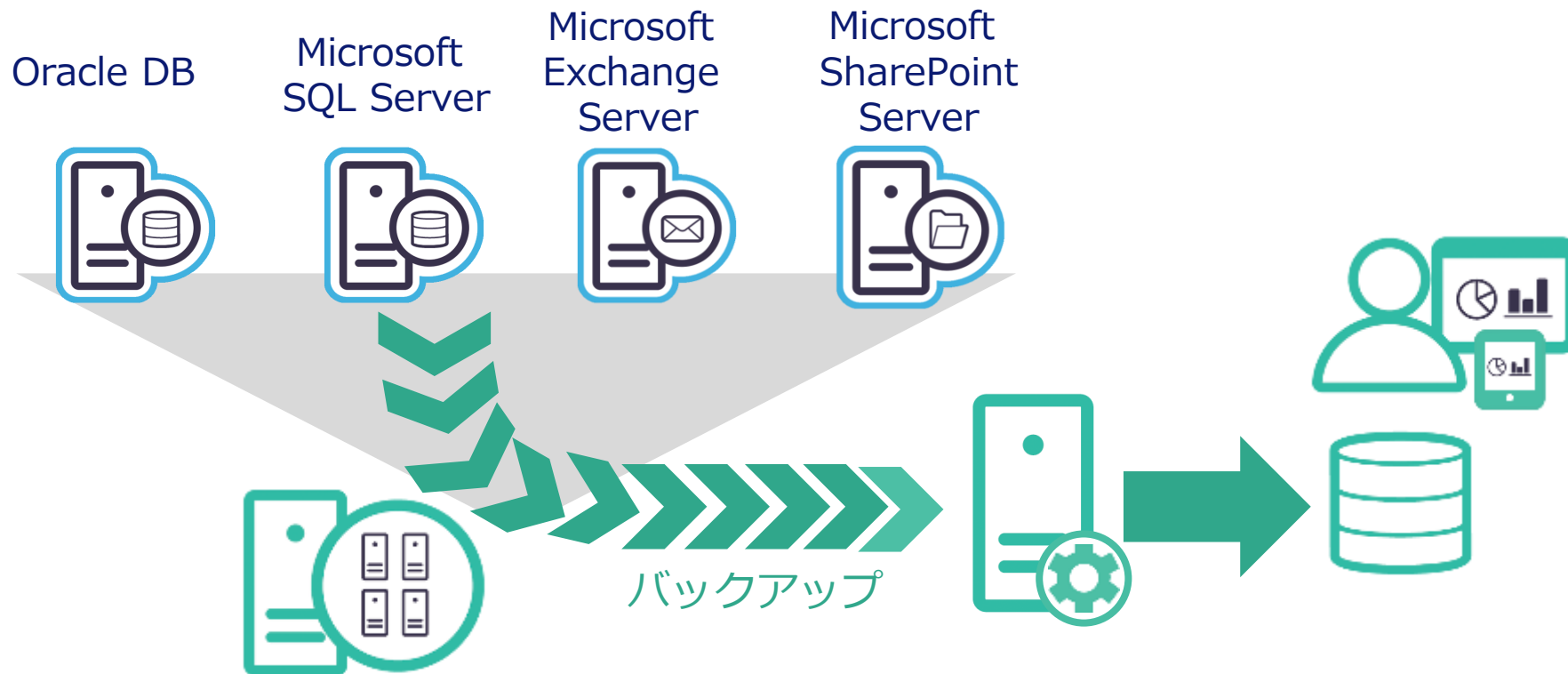


継続増分&重複排除バックアップ運用も可能！

※ AHV 環境のエージェントレス バックアップは、Advanced Edition for Nutanix に対応

仮想マシン内のアプリケーションもオンライン バックアップ

エージェントレス でも、稼働中の Microsoft SQL / Exchange Server / Share Point Server / Oracle DB を無停止でバックアップ※できる



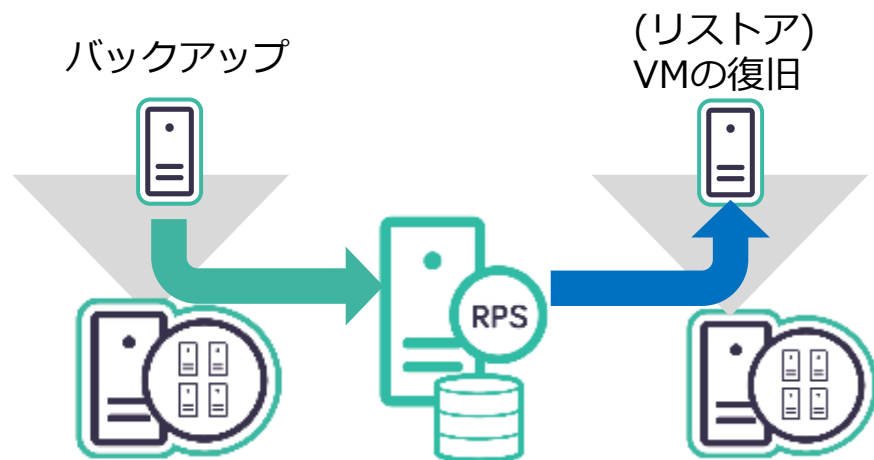
※ VMware Tools、Hyper-V 統合サービス、Nutanix Guest Tools の仮想マシンへの導入が必要
Proxmox VE は未サポート

仮想マシン単位、ファイル単位で簡単復旧

仮想マシン全体の復旧はもちろん、個別ファイル単位でのリストアも可能

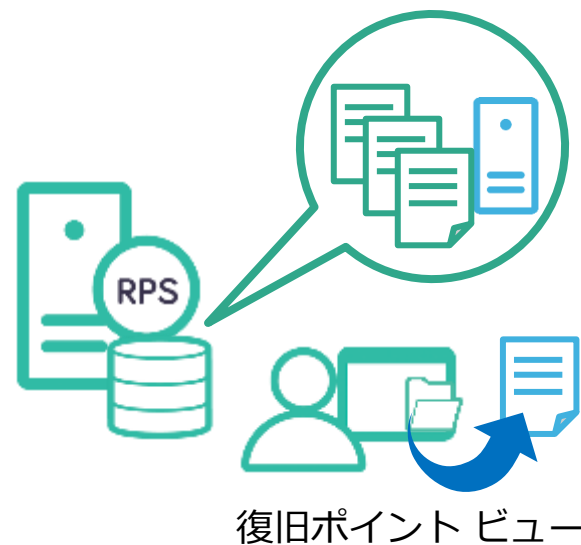
仮想マシン (VM) の復旧

別の仮想ホストやバージョンが異なる
同一のハイパーバイザへの復旧も可能



ファイル レベル リストア

エージェントレス バックアップからでも
ファイル単位でリストア





エージェントレス バックアップ でもここまでできる！

停止中の仮想マシンのバックアップおよびファイル単位のリストア

- Windows 仮想マシンが停止中に取得したバックアップデータからファイル単位のリストアが可能
- VMware vSphere および Microsoft Hyper-V 環境で利用可能

Microsoft Hyper-V クラスタ環境のサポート

- Microsoft Hyper-V クラスタ上の仮想マシンをエージェントレスでバックアップ
- ライブマイグレーションで移動した仮想マシンのバックアップも対応

仮想マシンの自動検出 + 自動バックアップ

- VMware vSphere や Microsoft Hyper-Vの仮想マシンを定期的に自動検出し、管理者にメールで通知
- VMware / Hyper-V 環境の新規仮想マシンを自動的に登録してプランに追加できるため、新規ノード追加時の漏れが無いバックアップと、運用の効率化が可能

様々なVMware vSphere 環境のサポート

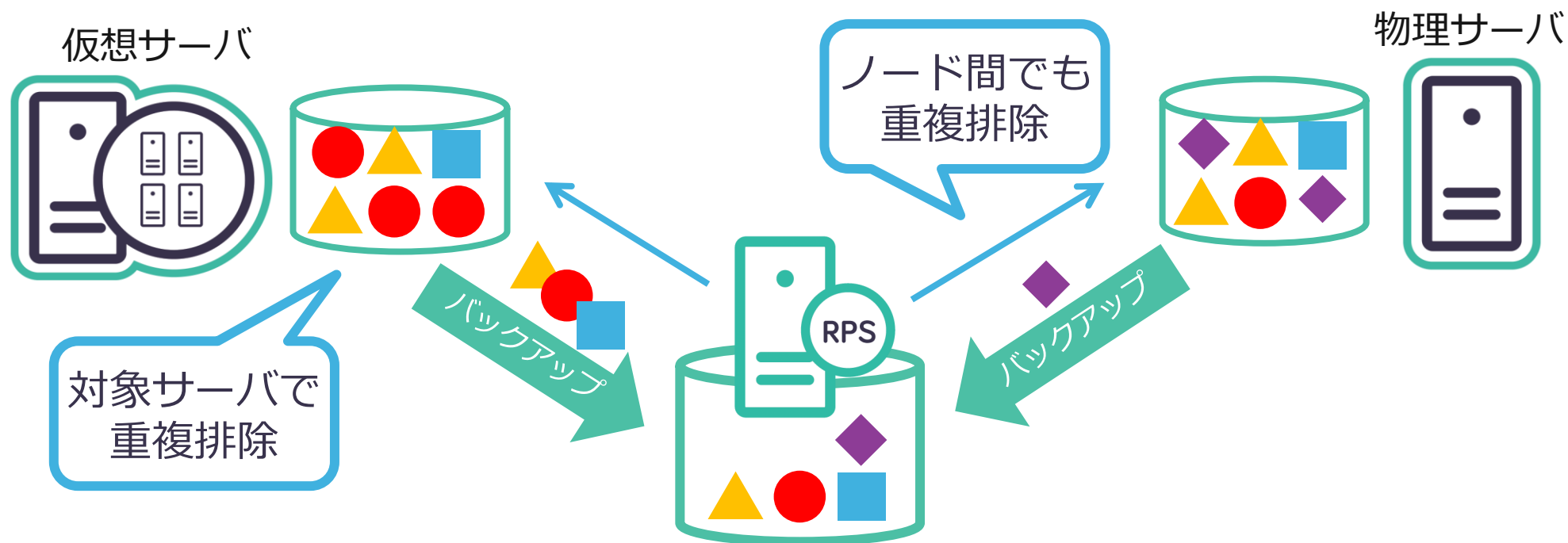
VMware vSphere vMotion、HA、vSANや vNetwork Distributed Switch (vDS)が利用されている環境のバックアップおよびリストアをサポート

参考 : [vSphere ESXi の各機能 \(vMotion など\) に関する Arcserve UDP のサポート状況について](#)

重複排除によるバックアップデータの大幅削減

こんな時に
便利！

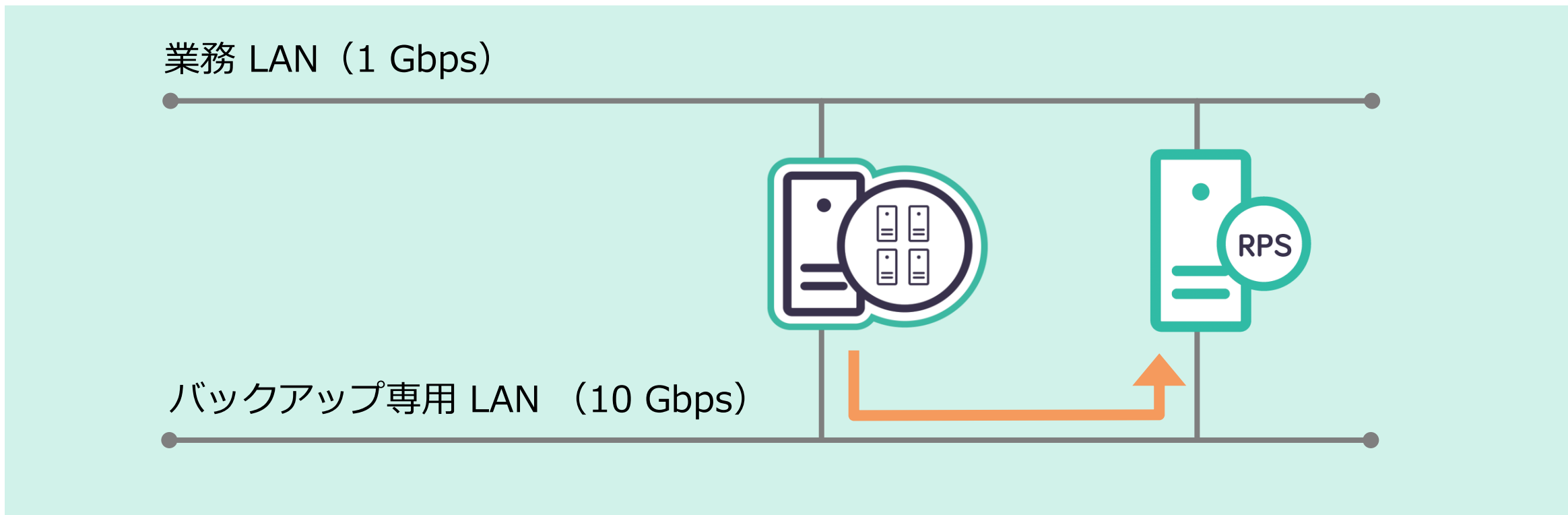
- ➡ バックアップデータ容量を少なく保存したい
- ➡ ネットワークに流れるデータ量を少なくしたい



バックアップ対象とノード間のそれぞれの重複排除を合わせて排除率を最大化

業務LANに負荷をかけない、高速バックアップの構成例

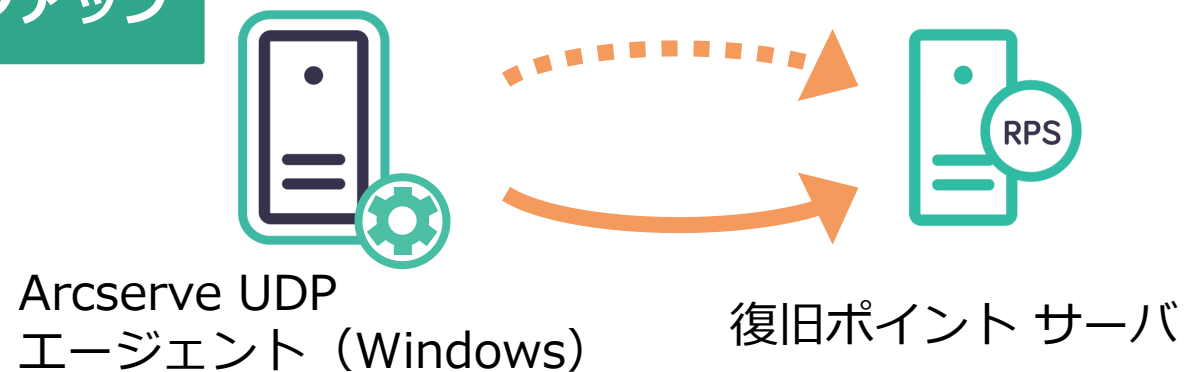
業務 LAN より高速なネットワークをバックアップ専用 LAN として指定すれば、**バックアップ時間の短縮**が期待できます！



物理/仮想環境のバックアップ時のネットワーク指定に対応

物理マシン(Windows エージェント)でのバックアップ

Arcserve UDP エージェント (Windows) 導入
サーバと復旧ポイント サーバ (RPS) 間の
バックアップ経路を指定できます。



仮想マシンの エージェントレス バックアップ

ハイパーバイザーとバックアップ プロキシ間、
バックアップ プロキシと RPS 間の
バックアップ経路をそれぞれ指定できます。



※ ハイパーバイザーは ESXi、Hyper-V、Nutanix AHVに対応しています。

リストアやレプリケートでもネットワーク指定が可能

リストアやレプリケートによるバックアップデータ転送で業務LANへの影響を削減

Linux エージェントでのバックアップ



RPS 間のレプリケート



Windows / Linux のファイルリストア



VM の復旧 ※

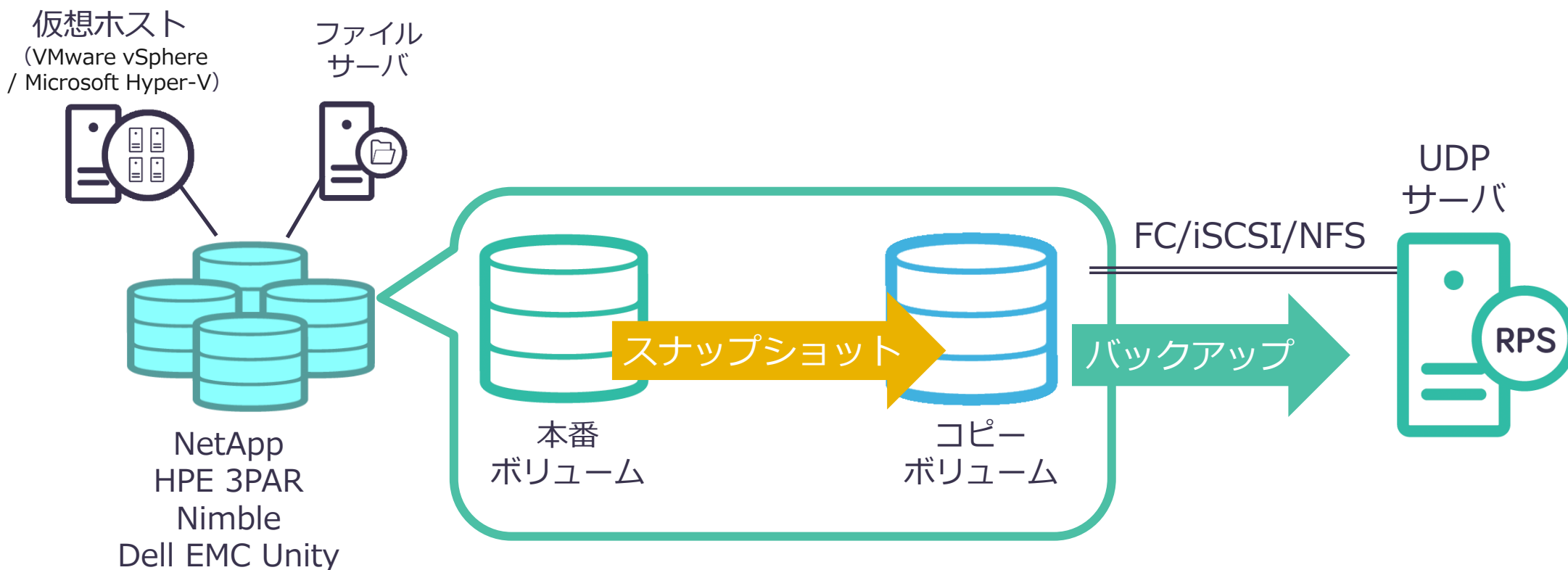


※ Proxmox VE は未サポート

ストレージと連携し、大容量を高速バックアップ

こんな時に
便利！

- ハードウェア スナップショットと連携した高速バックアップを実現
- 構成次第でVM 領域やファイル サーバ領域のLANフリー バックアップも可能



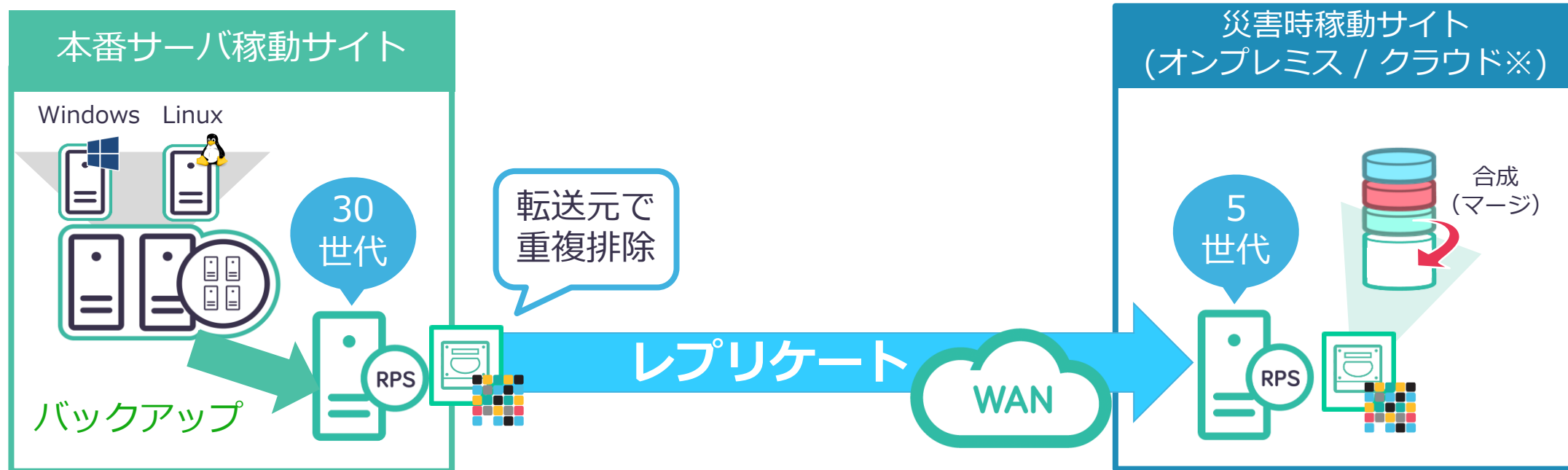
Arcserve UDP のフォーカスエリア



バックアップデータの遠隔地への転送（レプリケート）

こんな時に
便利！

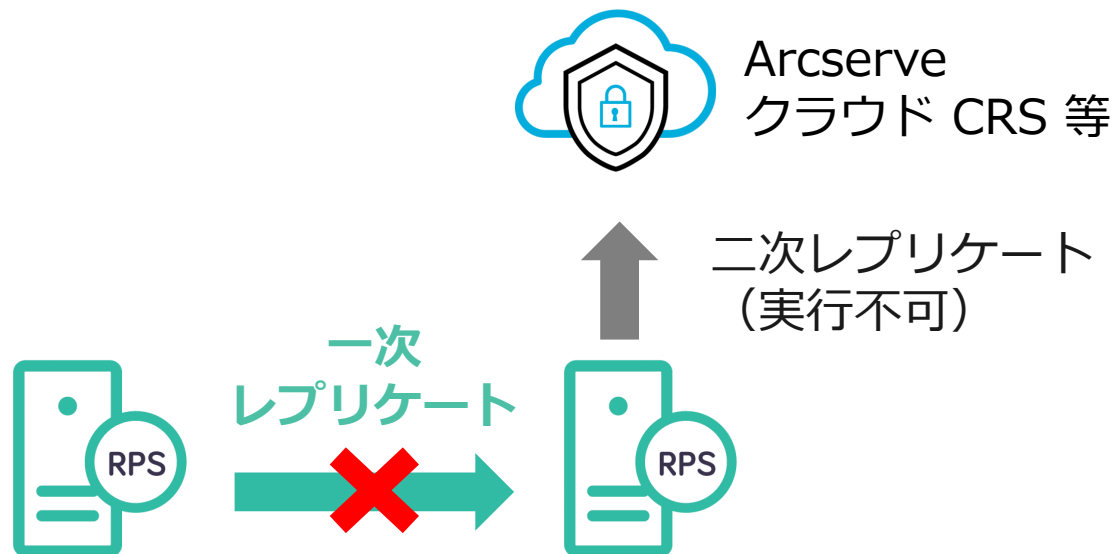
- ➔ バックアップデータを遠隔地に保管しておきたい
- ➔ WANに流れるデータは更に少なくしたい



※ レプリケート先には復旧ポイントサーバ（RPS）が必要です。Arcserve UDP Cloud Hybrid には RPS がインストールされており、レプリケート先として利用することが出来ます。

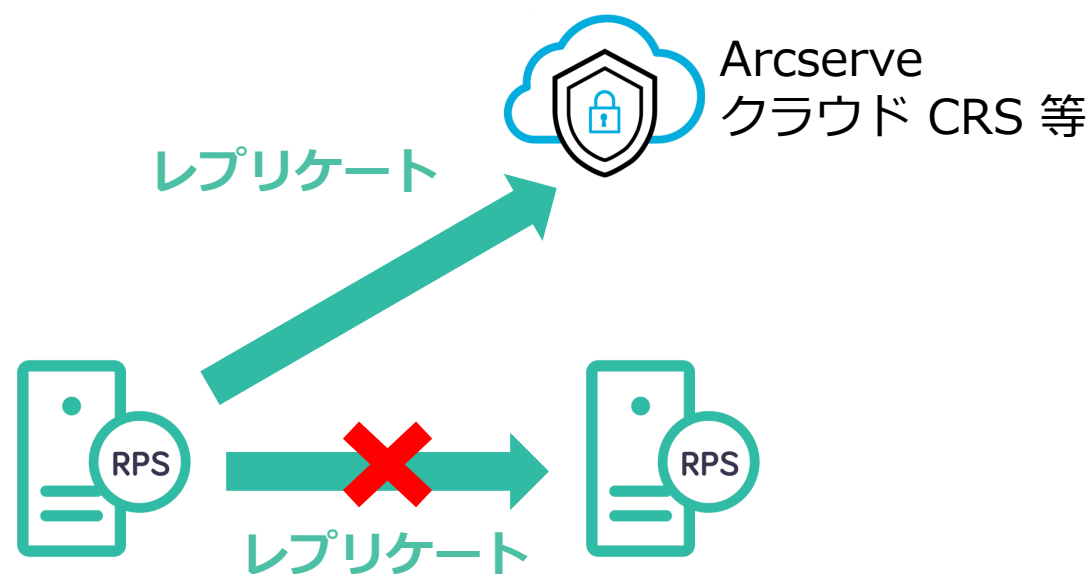
複数レプリケートの構成例 ～ ジョブ失敗時の挙動

1対1対1のレプリケート



一次レプリケート ジョブが失敗した場合、
二次レプリケート ジョブは**実行不可**

1 対多のレプリケート (Arcserve UDP 10.0 以降)

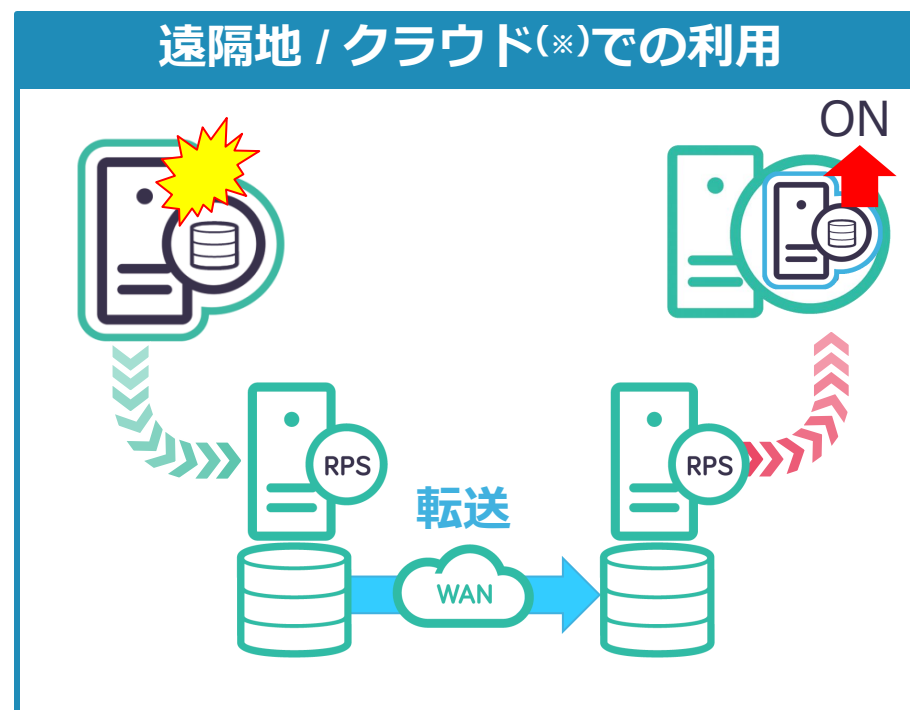
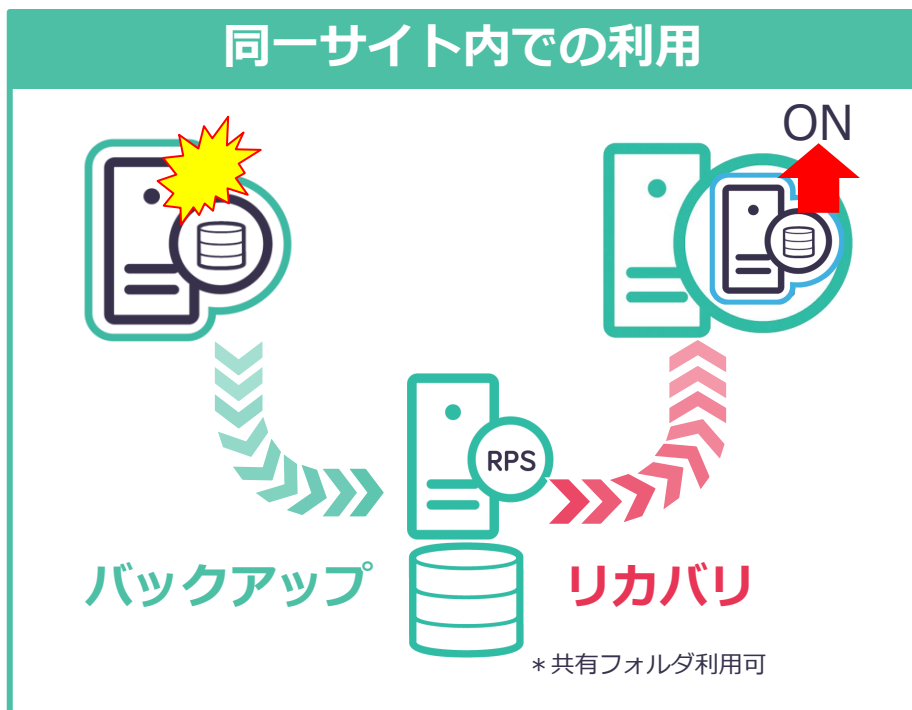


1か所レプリケートジョブが失敗しても
他のレプリケート ジョブは**継続実行**

代替仮想マシンによる業務継続（仮想スタンバイ）

こんな時に
便利！

- ➔ 障害時にリストア作業せず、より早く環境を利用したい
- ➔ 災害時には遠隔地またはクラウドでサーバを即継続利用したい



復旧済みの仮想マシンで
素早く業務を再開

ローカル / 遠隔地でも構成
できる

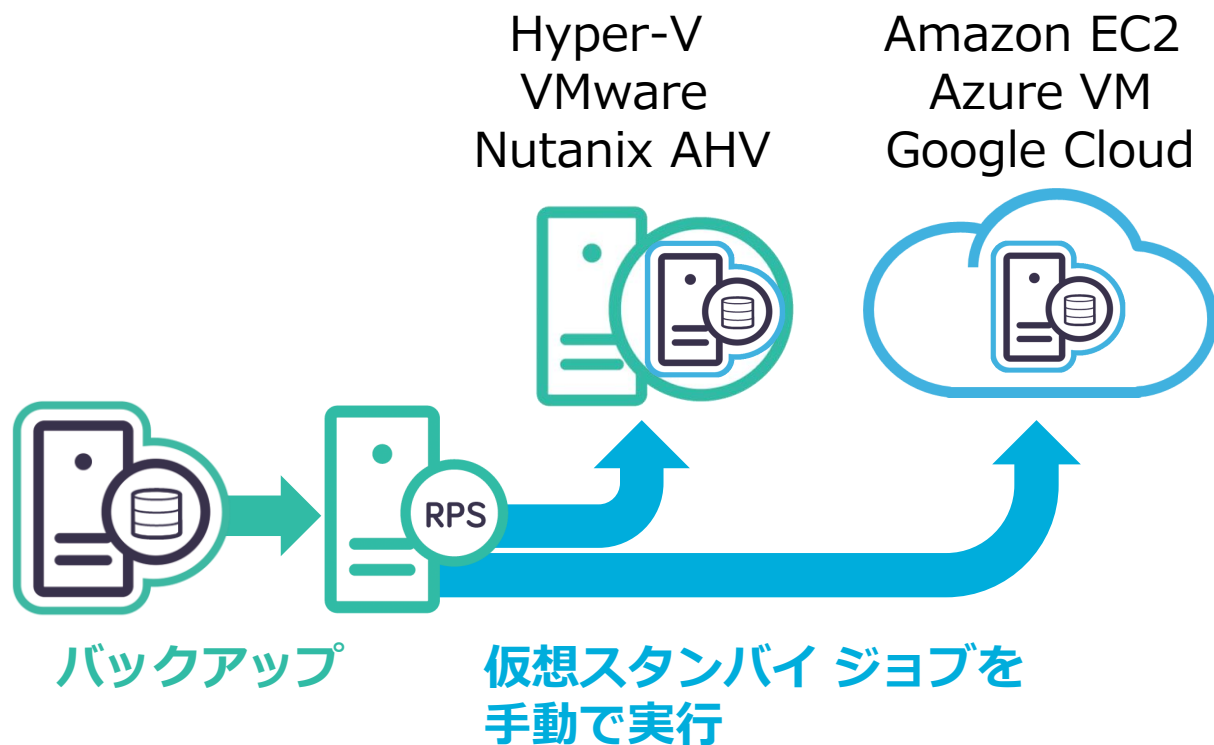
複数のスナップショット
から適切な時点に戻せる

※ Amazon EC2、Microsoft Azure、Google Cloud、Arcserve UDP Cloud Hybrid をサポート

arcserve®

仮想スタンバイの手動実行 (アドホック仮想スタンバイ)

あらかじめ仮想環境やクラウド環境に仮想ディスクなどのリソースは不要！！
必要になった時点で仮想スタンバイを実行



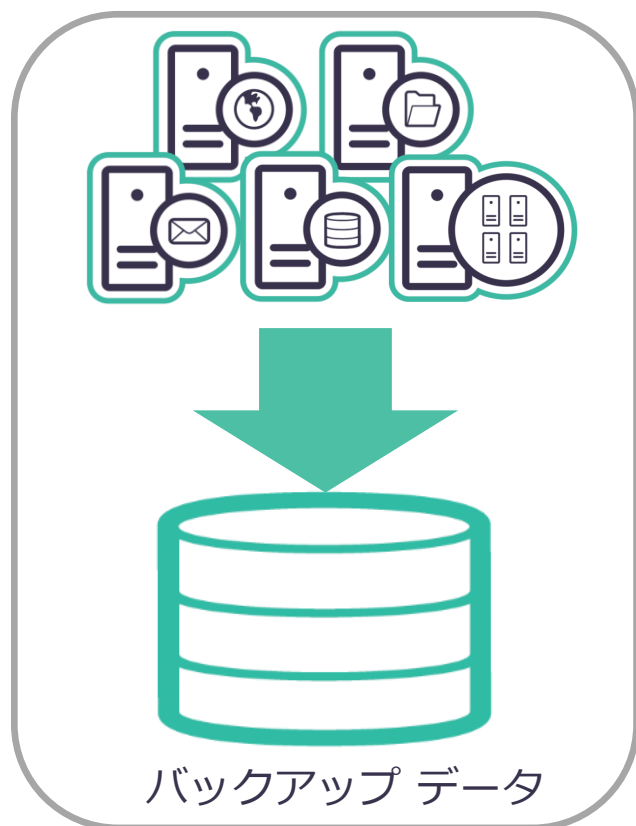
- ✓ バックアップ元と仮想スタンバイ先が異なる仮想環境でも利用が可能
- ✓ バックアップ または レプリケートのデータで実行可
- ✓ 複数個所にスタンバイ VM を作成できる

※ 仮想スタンバイ ジョブの手動実行には RPS が必須

バックアップデータからサーバの替わりを即作成 (インスタント VM)

こんな時に
便利！

- ➔ 予算が無く、代替環境を予め用意していない場合でも直ぐに業務を再開したい
- ➔ ウイルスなどの被害時に本番サーバの替わりを用意したい



数ステップの
簡単なウィザードで
僅か10分ほどで起動

インスタント VM



復旧先の仮想環境

(VMware vSphere / Microsoft Hyper-V / Nutanix AHV
/ Amazon EC2 / Microsoft Azure / Arcserve UDP Cloud Hybrid) ※

バックアップデータから
直接サーバ起動

※Windows のインスタント VM は VMware vSphere, Microsoft Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid 環境のみ

インスタント VMと仮想スタンバイとの違い

インスタント VM

低コスト

The diagram illustrates the recovery process for an Instant VM. On the left, a server icon with a yellow explosion and a database cylinder is labeled 'バックアップ' (Backup). A green arrow points from this backup to a central server icon labeled 'RPS' (Recovery Point Storage) with a database cylinder. From the RPS, a dashed orange arrow labeled 'サーバ起動' (Server Start) points to a server icon on the right labeled 'ON' (On) with a red arrow pointing up. The 'ON' server icon also contains a database cylinder.

※WindowsのIVMはvSphere, Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid環境のみ

- ❑ 事前準備が不要
- ❑ バックアップデータを参照するVMを起動
- ❑ VM 格納用のディスク領域は不要
- ❑ Windows & Linux をサポート
- ❑ バックアップデータの健全性確認に利用できるので、ランサムウェア対策にもお勧め

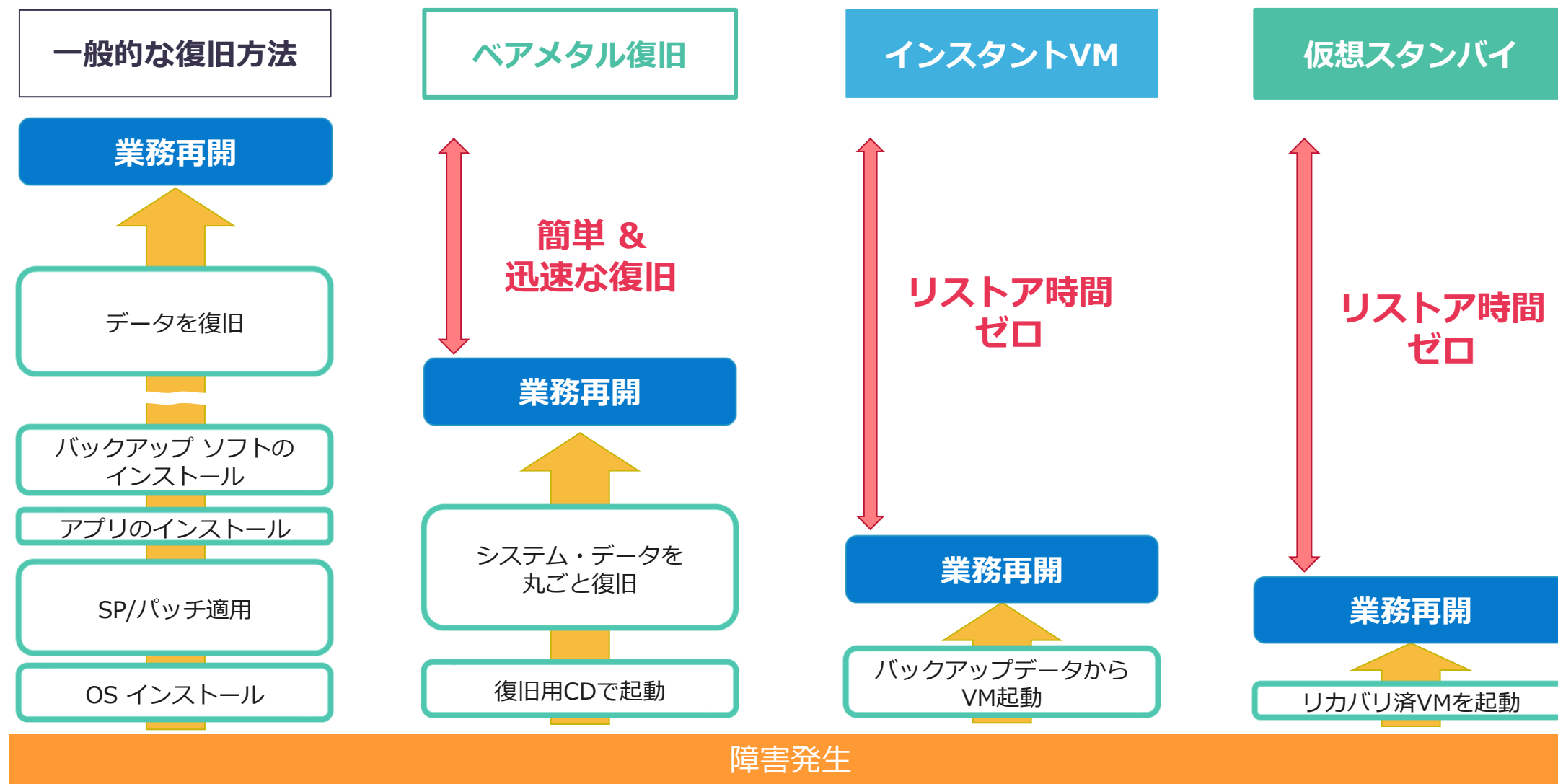
仮想スタンバイ

低遅延

The diagram illustrates the recovery process for a Virtual Standby. On the left, a server icon with a yellow explosion and a database cylinder is labeled 'バックアップ' (Backup). A green arrow points from this backup to a central server icon labeled 'RPS' (Recovery Point Storage) with a database cylinder. From the RPS, a red arrow labeled '自動リカバリ' (Automatic Recovery) points to a server icon on the right labeled 'ON' (On) with a red arrow pointing up. The 'ON' server icon also contains a database cylinder.

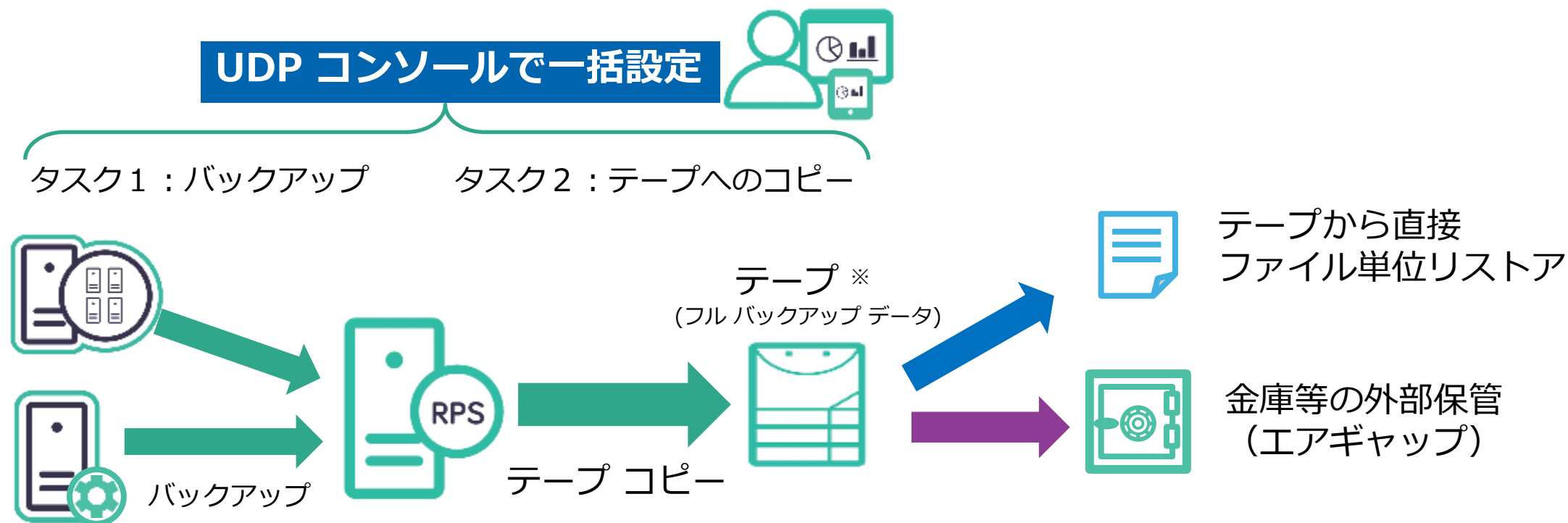
- ❑ バックアップ時にリカバリまで実行済
- ❑ バックアップデータを参照しないVMを起動するので、遅延が少ない
- ❑ スタンバイVM分のディスクが必要
- ❑ Windows をサポート

<参考> 業務再開までの時間で比較



テープを利用した災害対策 (Arcserve Backup との連携)

バックアップデータを**テープ**に保存してデータ保護を強化
監査対応のため**長期間**バックアップ データ保管や、**災対**サイトへの移送、
ランサムウェア対策にも有効



※ シングル テープ ライブラリの場合は Advanced Edition で利用可

Arcserve Backup の利用で、より多彩な要件に対応

UDP に対応するバックアップ構成を Arcserve Backup でさらに拡張

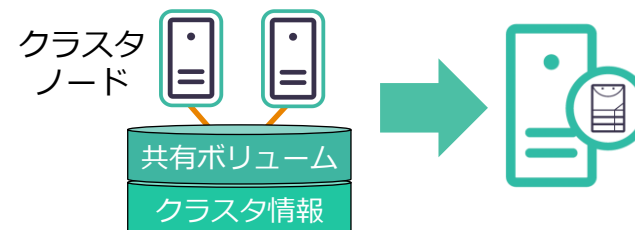
ファイル/フォルダ単位の バックアップ

特定のファイルやフォルダのみを指定して
バックアップ



アプリケーション クラスタの バックアップ

WSFC 環境のアプリケーションの
バックアップに対応



テープ バックアップの強化

D2Tでの直接バックアップや複数ドライブ
搭載のテープライブラリの利用をサポート



Arcserve Backupのその他機能

Arcserve Backupのエージェント／オプション
機能をすべて利用可能※



※日本でサポートされているエージェント・機能のみ

災害対策をさらに強化

Arcserve Replication/HA の機能を利用し、より細かな災害対策要件にも対応

ファイル単位のレプリケーション

ファイルサーバのリアルタイム レプリケーションにより、鮮度の高いデータを遠隔保護

**P**

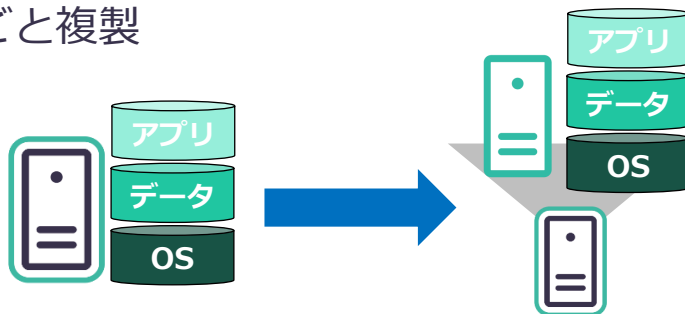
アプリケーションの可用性向上

MS SQL ServerやOracleデータベースなどアプリケーションのデータを複製、スイッチオーバーまでサポート

**P+**

OS/データのまるごと複製にも対応

フル システム シナリオで、OS/データを丸ごと複製

**P+**

Arcserve RHA その他機能

Arcserve Replication/HAのシナリオおよび機能をすべて利用可能 ※

アシュアード
リカバリ

サービス
監視

Exchange
SQL Server
Oracle
IIS

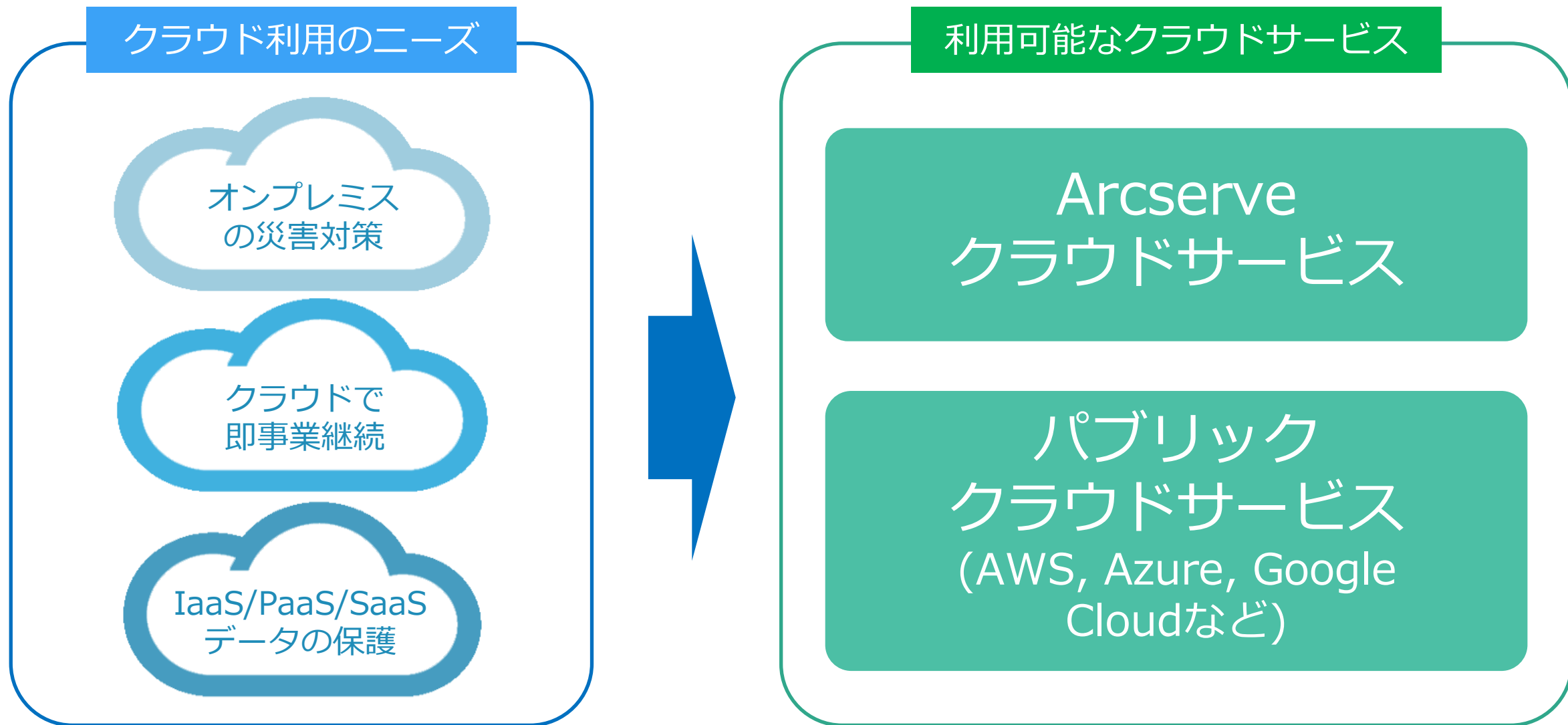
etc

※日本でサポートされているシナリオ・機能のみ

P+

2. 様々なクラウド利用 のニーズへの対応

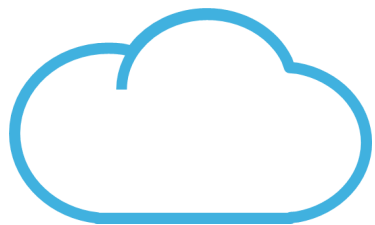
様々なクラウド利用のニーズへの対応



利用可能なクラウドサービス①



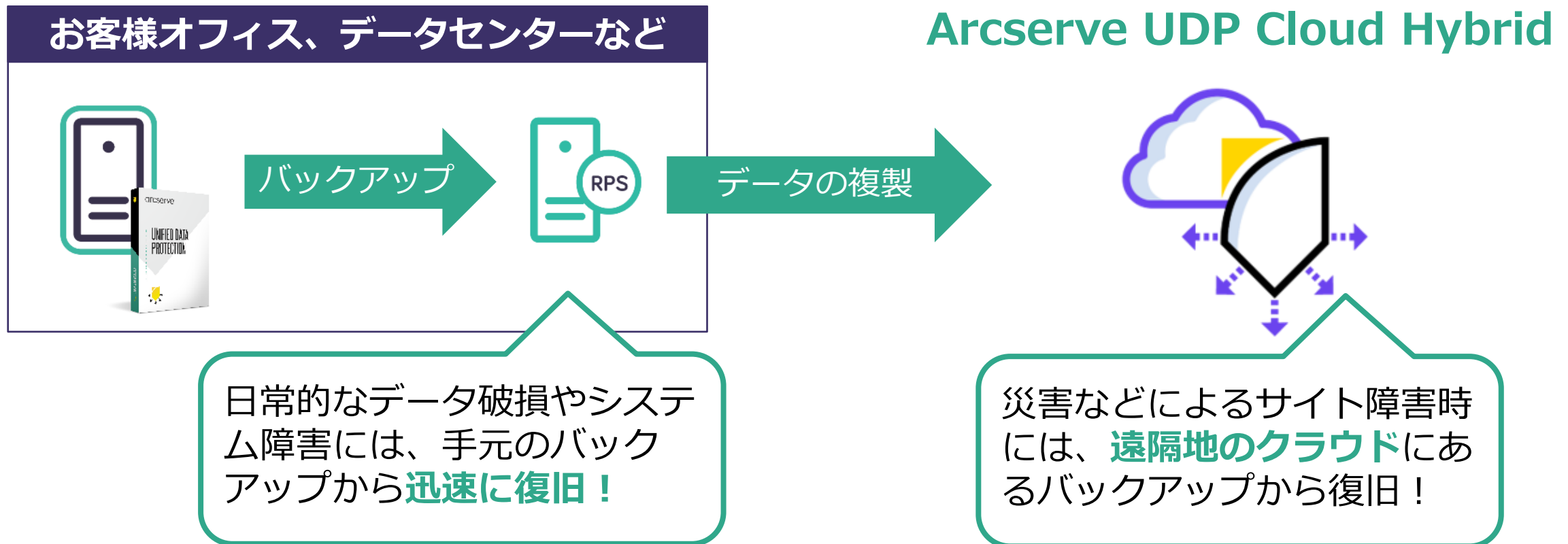
Arcserve クラウドサービス



パブリック クラウドサービス

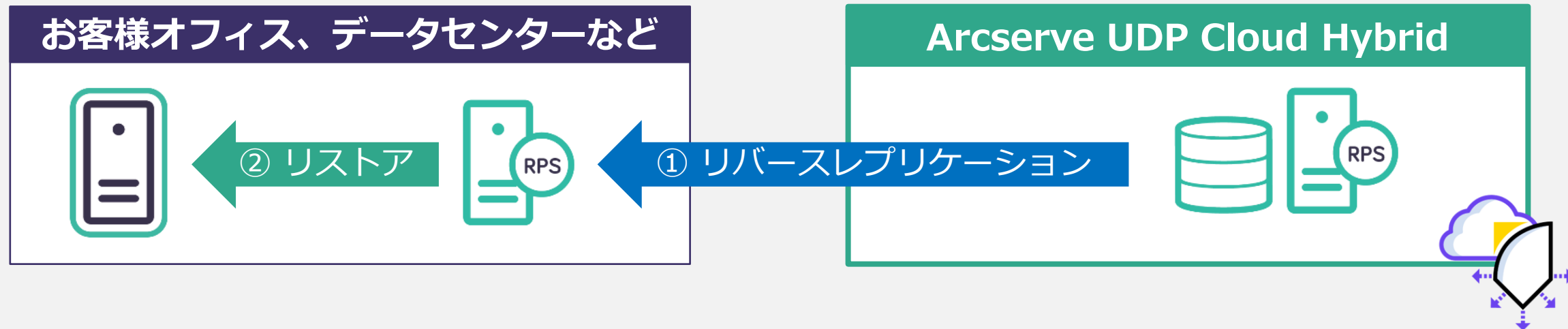
Arcserve クラウドサービス ～ Arcserve UDP Cloud Hybrid とは ～

Arcserve UDP / Arcserve UDP Appliance が持つ復旧ポイントサーバ（RPS）間のレプリケート（複製）機能を活用し、オンプレミスでの利便性の高いバックアップと、災害に備えた遠隔バックアップの「**ハイブリッド**」を実現するサービスです。



Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン1 ～ 災害によるサイト障害からシステムを復旧

オンプレミスのバックアップ データが災害などで失われた場合には、クラウドから RPS へ逆レプリケーション(リバースレプリケーション機能)し (①)、そのバックアップ データからシステムをリストアします (②)。

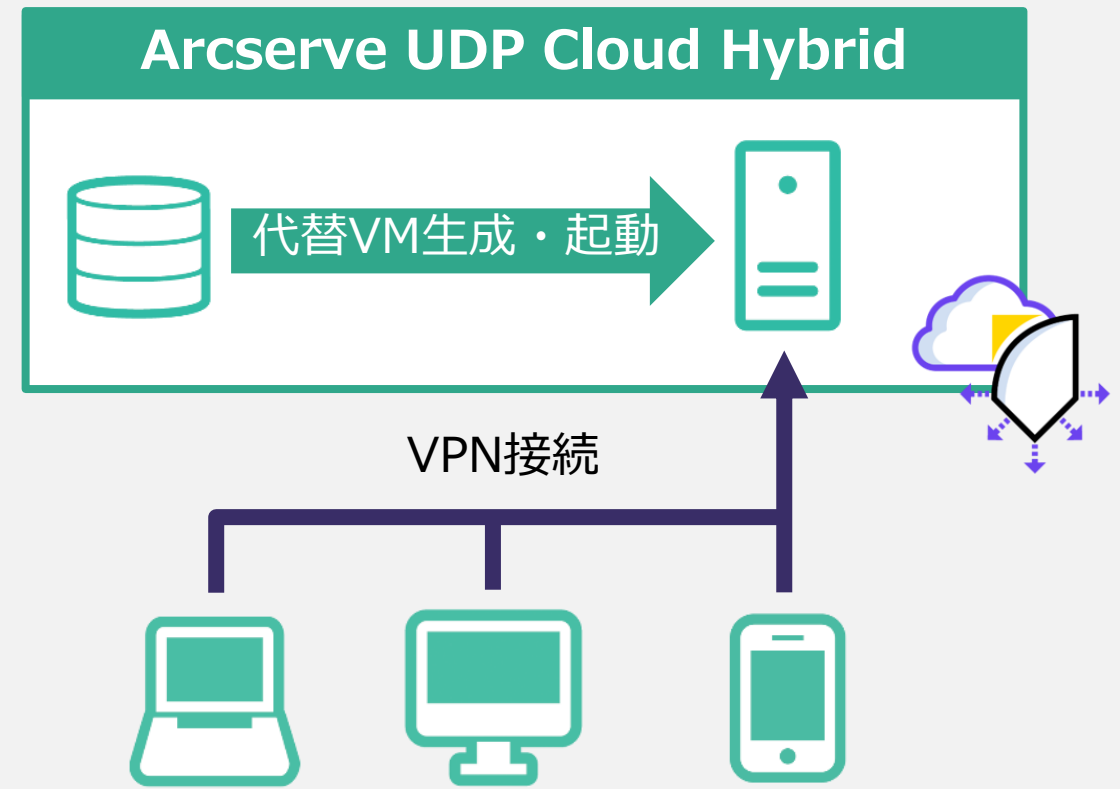


※ ファイル/フォルダ の直接リストアも可能です。ただし、Linux の場合 Compute リソースの購入が必要です。

※ リバース レプリケーション機能により、バックアップ データをクラウドから複製する際のお客様側ホスト名の提供やポート開放は不要です。

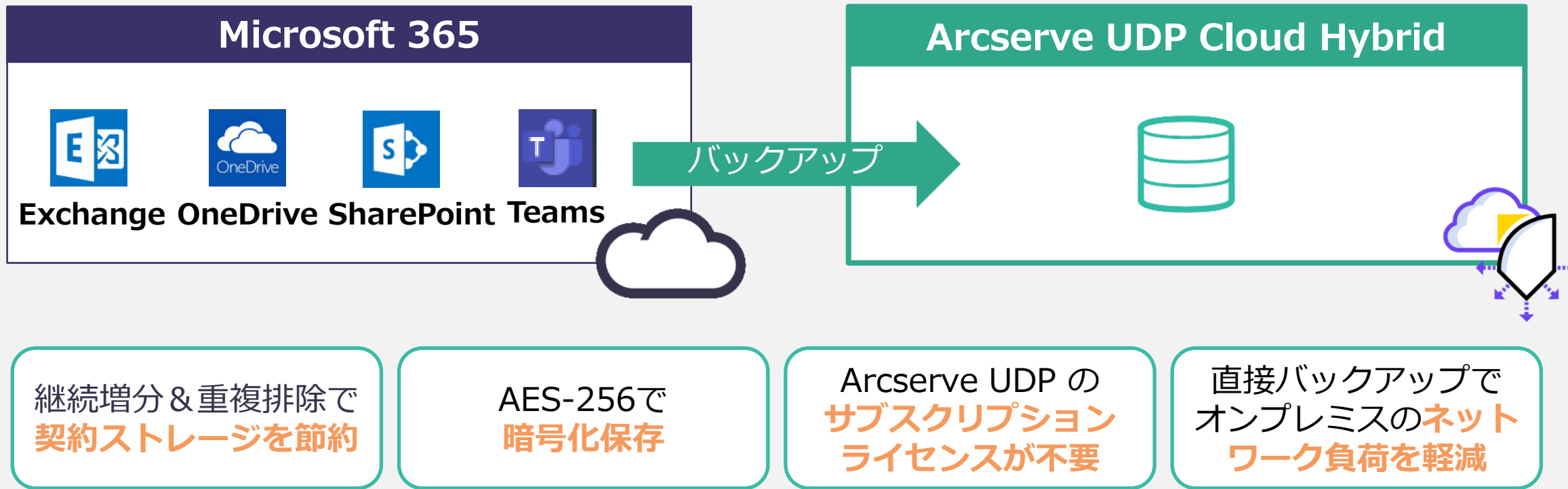
Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン2 ～ 災害時にクラウド上でシステムを継続利用

本番システムの障害時には、インスタントVMまたは仮想スタンバイ機能で、本番システムの**代替仮想マシン（VM）を起動**。VPN経由で代替VMにアクセスし**業務を継続できます**。



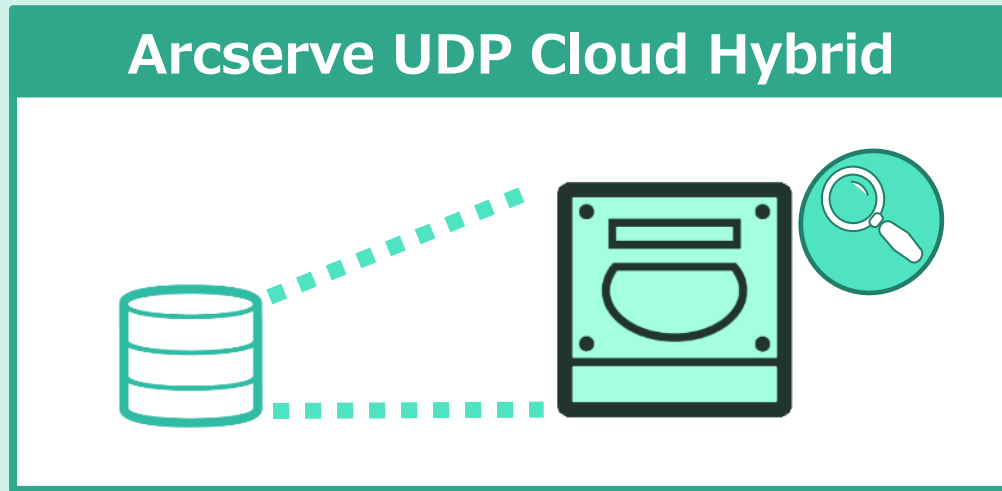
Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン3 ～ Microsoft 365 のデータを直接クラウドへバックアップ

Microsoft 365 に限り Arcserve UDP Cloud Hybrid に**直接バックアップ**できます。
しかも Arcserve UDP の**サブスクリプションは不要**！
退職者アカウントなどの保存期間を過ぎたファイル/メールを復旧できます。



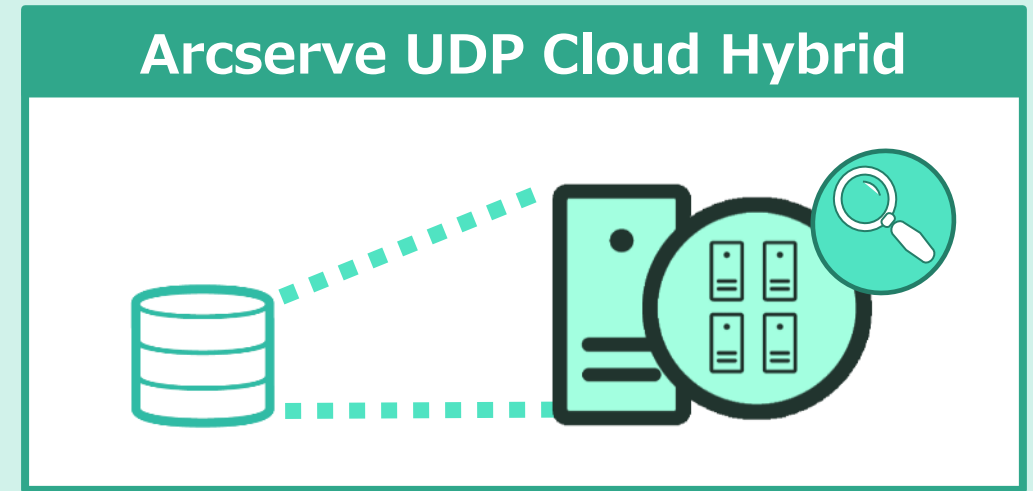
Arcserve UDP Cloud Hybrid で使えるアシュアード リカバリ機能 ～ レプリケートされたデータがリストア可能か自動でチェック

Windows/Microsoft365 のバックアップデータは**インスタント仮想ディスク方式**※1で状態確認



- ✓ スケジュールを指定して**自動実行**
- ✓ 確認結果を管理者へ**メールで通知**

Windows/Linux のバックアップ データは**インスタントVM方式**※2で起動確認



※1 CHKDSK でファイルシステムの整合性を確認できます。

※2 Compute リソースの購入が必要です。



Arcserve UDP Cloud Hybrid 2つのコスト メリットで “はじめやすい”

導入 コスト



クラウド インスタンスの構築/設定作業は一切不要

- ◆ サービス契約後、クラウドを利用したバックアップ/アーカイブ運用を すぐに開始 できる状態でクラウド アカウントをご提供します
- ◆ インスタンス構築に関連する 面倒な設定作業は一切不要。
ネットワークやセキュリティも設定済なので、すぐに運用が始められます



ランニング コスト



ご契約いただいたストレージ範囲内なら台数無制限で保護

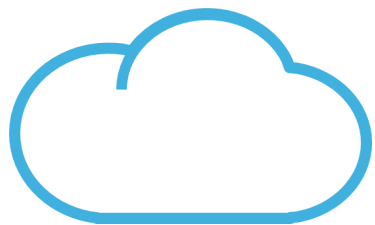
- ◆ 転送量に対する課金がなく、ストレージ課金も年契約で固定なのでコスト見積もりも容易。契約期間中でも容量増加の追加契約ができるので契約時の容量が不足して運用を止める心配がありません
- ◆ ストレージやインスタンスのメンテナンスは、全てArcserveにお任せ、メンテナンス作業は一切不要です



利用可能なクラウドサービス②



Arcserve クラウドサービス



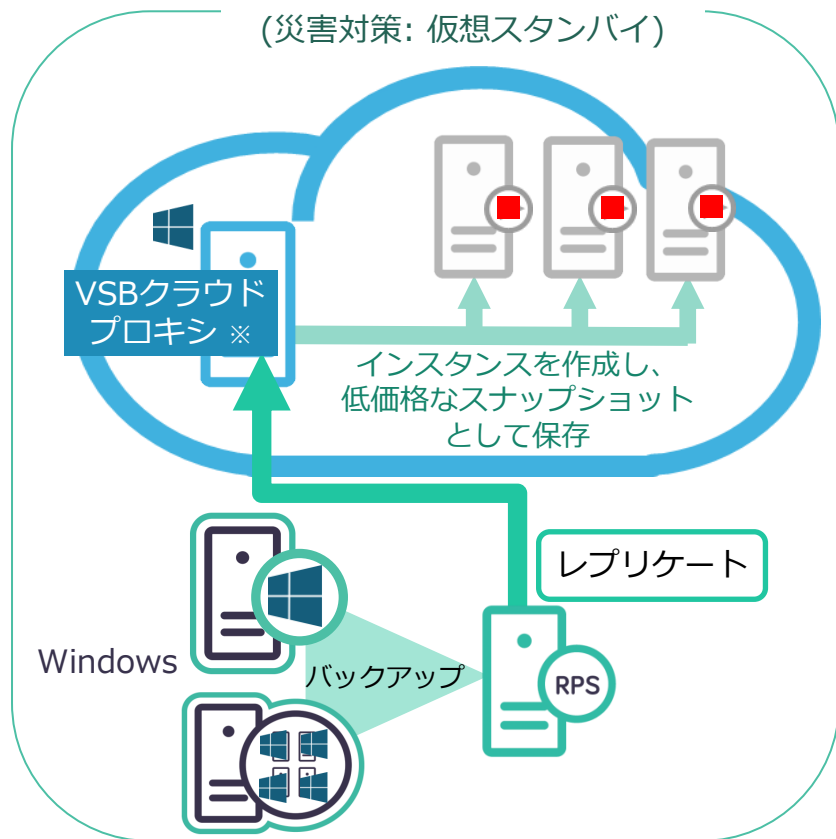
パブリック クラウドサービス

Amazon EC2 / Microsoft Azure / Google Cloud を利用した Windows 環境の事業継続

リストア時間 “**ゼロ**” でクラウドに**即**事業継続

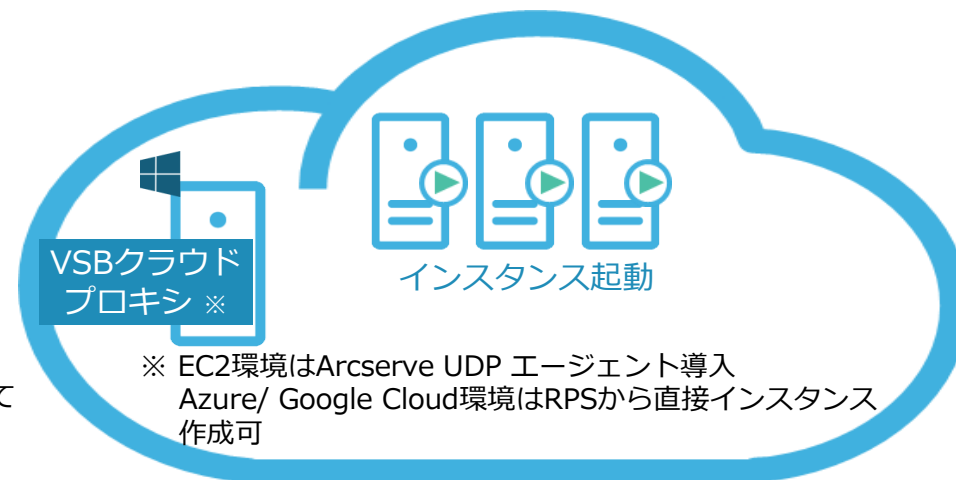
通常時

(災害対策: 仮想スタンバイ)



災害時

Azureでは低価格な
Blobストレージに
ディスクイメージを保管
起動時にインスタンスを作成して
アタッチ



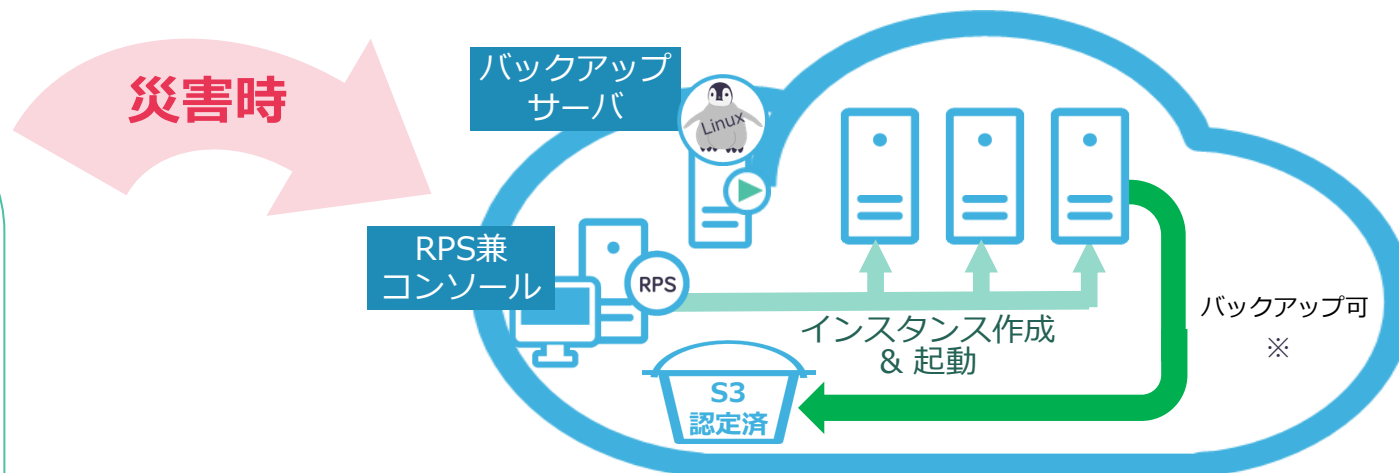
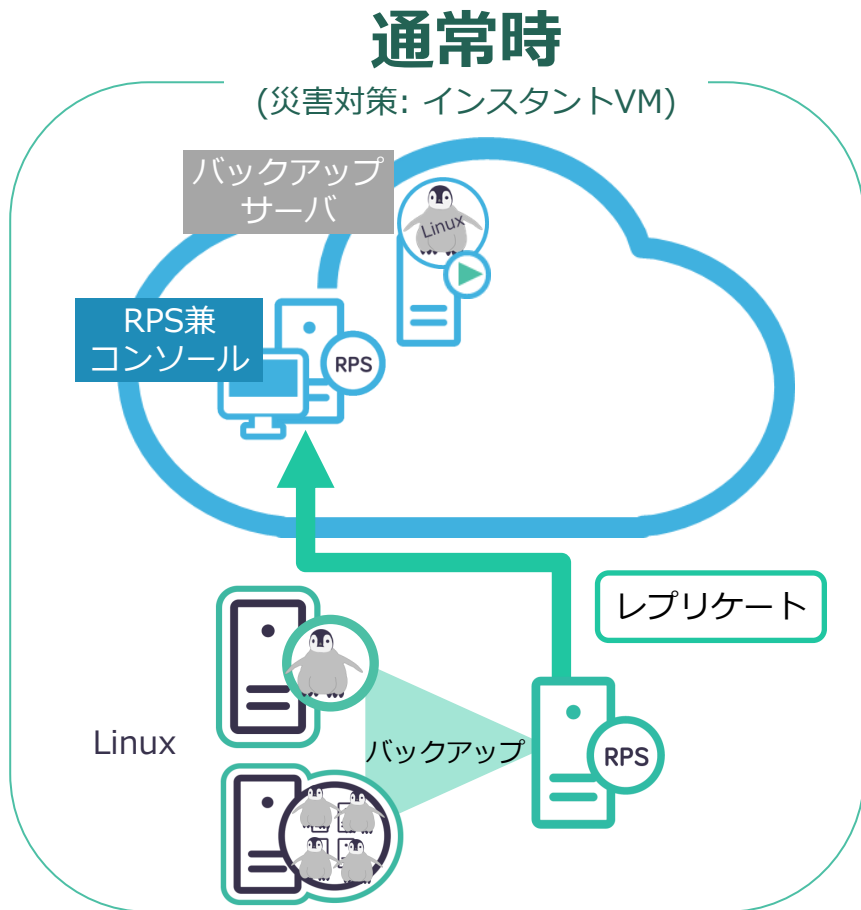
作成済みインスタンスを起動する
だけで業務サービスを即再開

大規模災害対応

オンプレミスへの復旧も可
(RPSレプリケート機能利用)

Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用したLinux 環境の事業継続

リストア時間 “**ゼロ**” でクラウドに**即**事業継続



わずか数ステップでインスタンス作成し、業務サービスを即再開

大規模災害対応

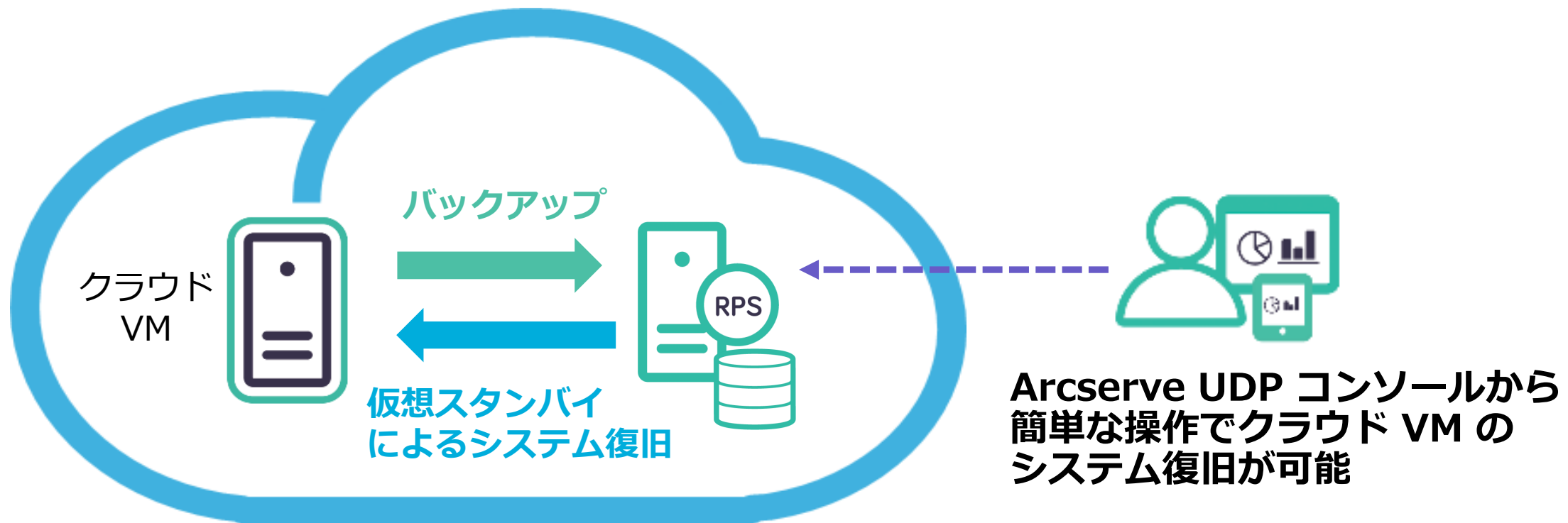
インスタントVMから
オンプレミスへのBMR也可

※ インスタントVMを S3 に直接バックアップし、オンプレミスへBMR可能

arcserve®

パブリック クラウドのシステム復旧

アドホック 仮想スタンバイを使用すると、パブリック クラウド(Amazon EC2, Azure, Google Cloud) 上のシステム復旧が簡単に出来る

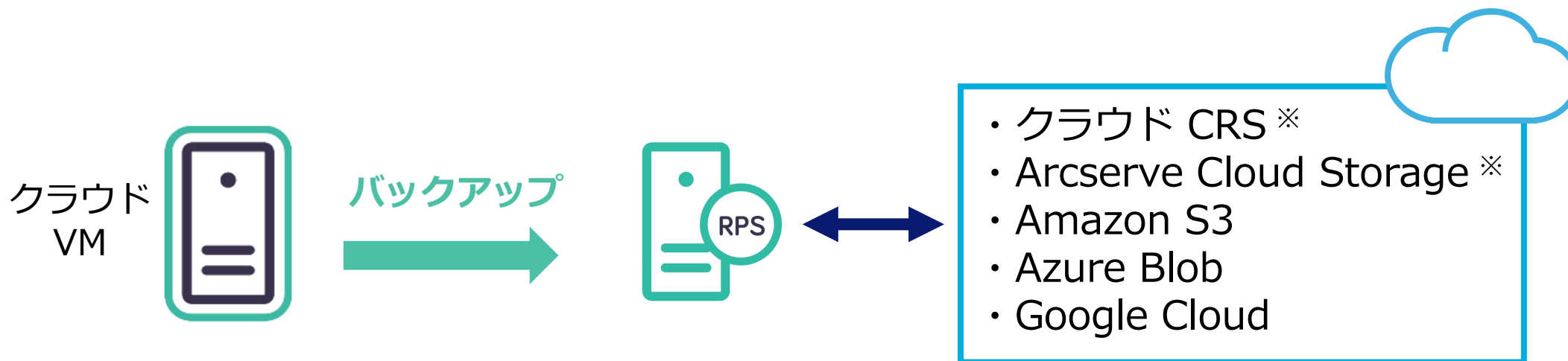


※ 仮想スタンバイ ジョブの手動実行には RPS が必須

クラウド VM をオブジェクトストレージにバックアップ

復旧ポイントサーバ（RPS）データストアのデータ デスティネーションに
オブジェクトストレージを利用できる

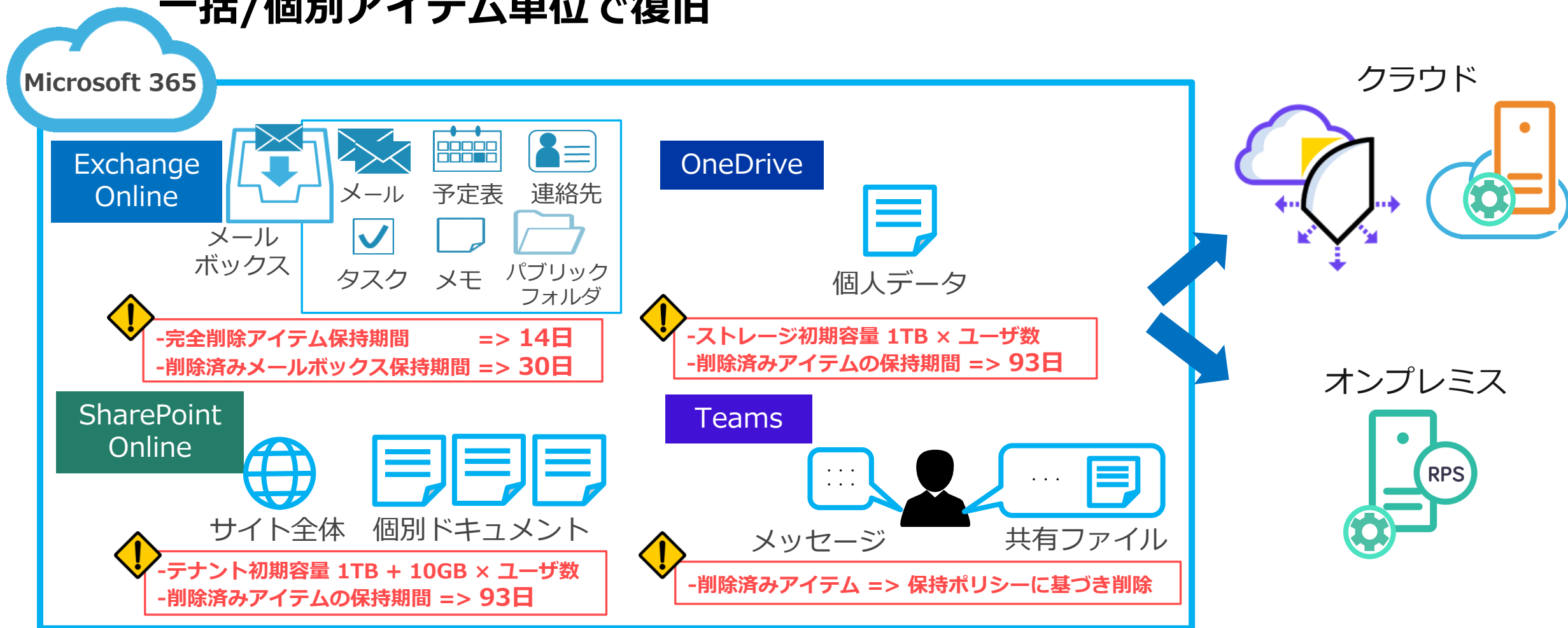
継続的な増分バックアップや重複排除で、ストレージ コストをさらに削減



※ Arcserve UDP Advanced Edition でも利用可能

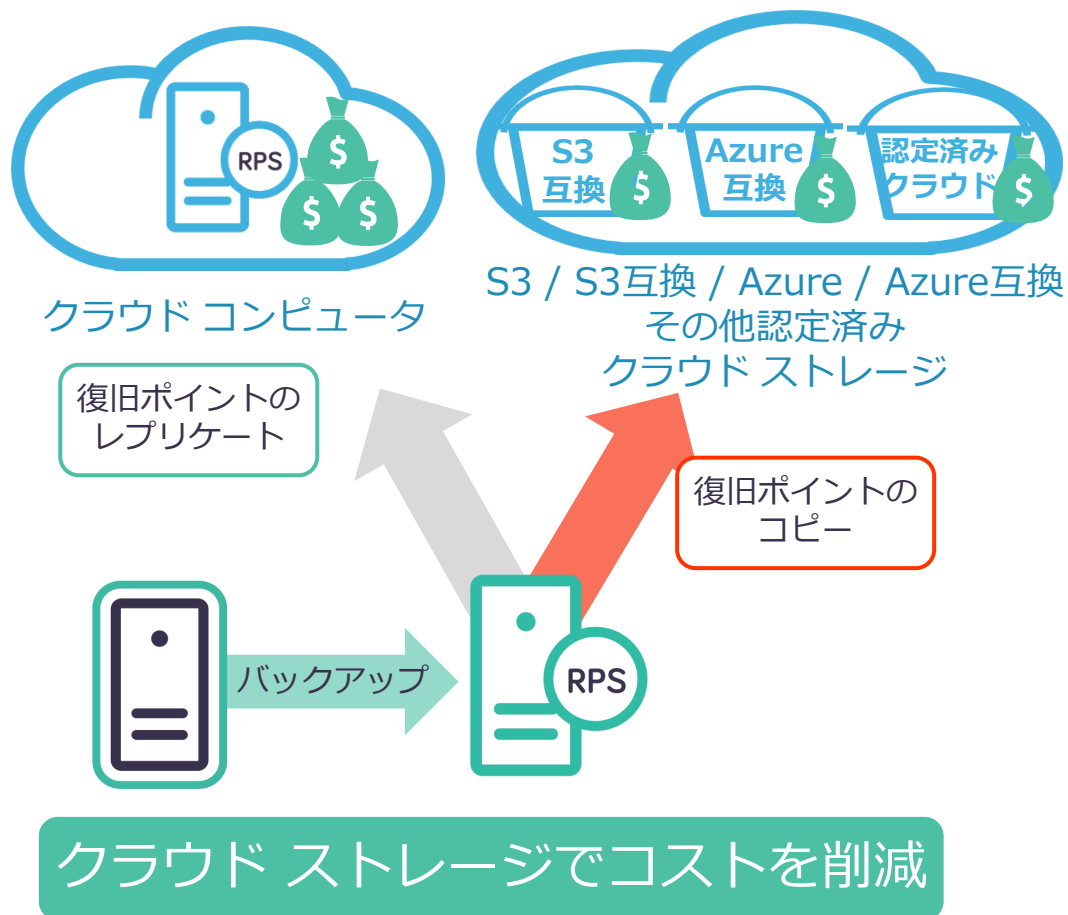
Microsoft 365 のバックアップ

重要データや退職者のメールをクラウドやオンプレミスにバックアップ
一括/個別アイテム単位で復旧

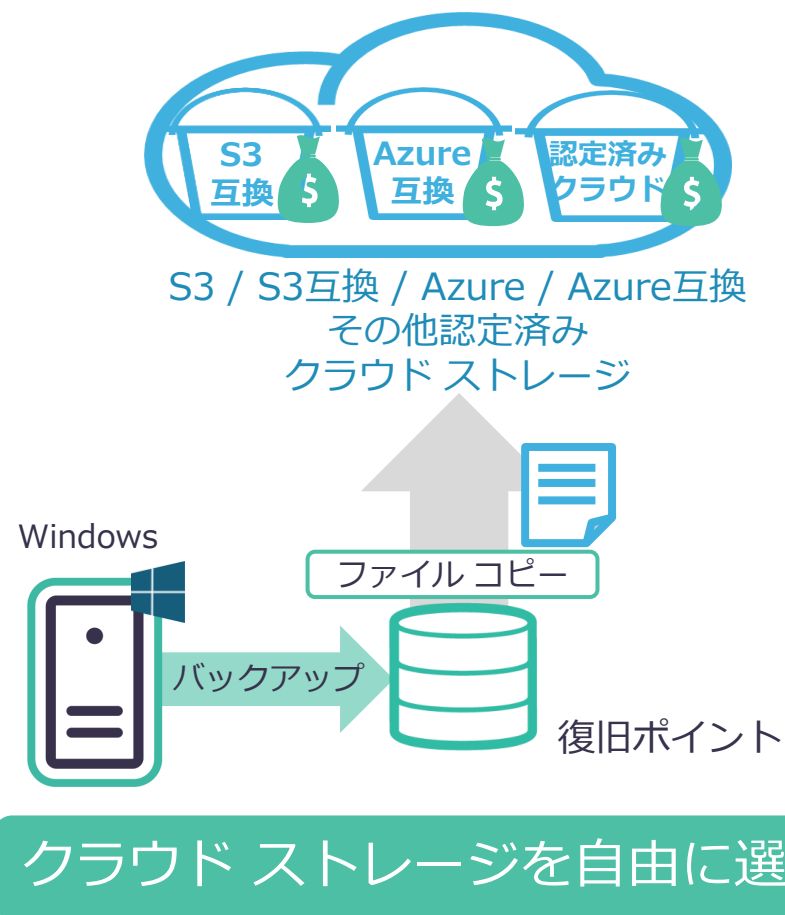


クラウド ストレージへの二次バックアップ

バックアップ データのクラウド保管

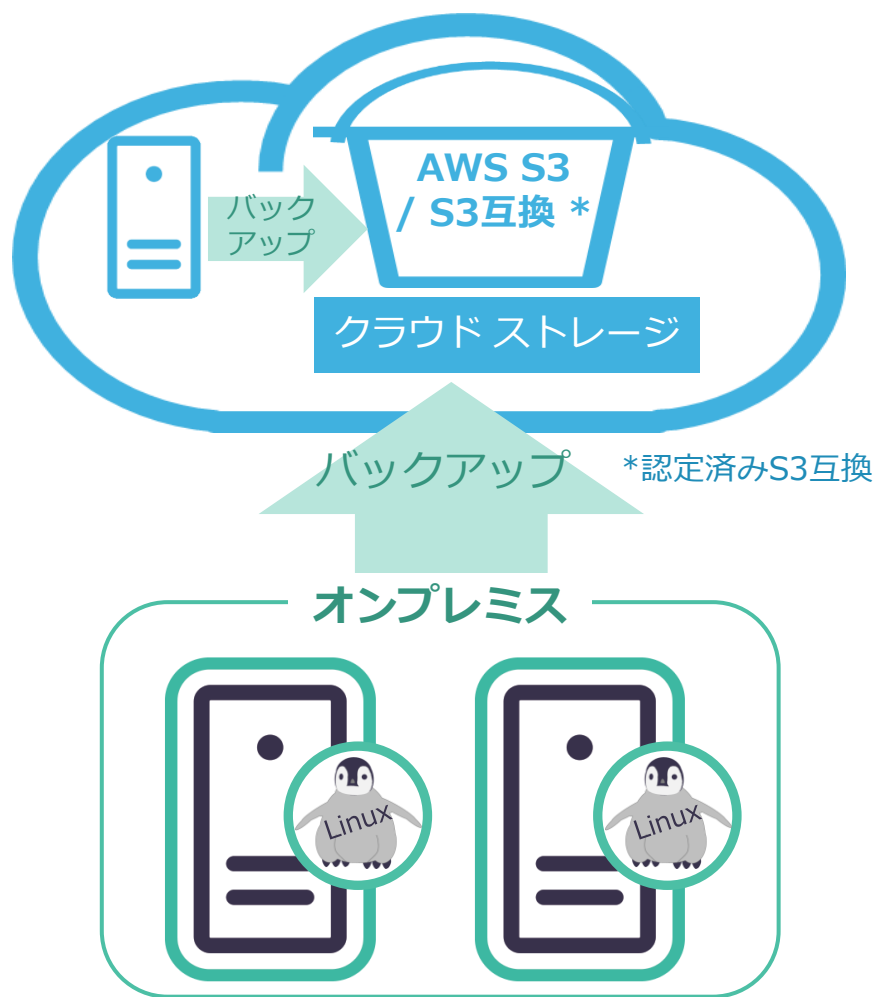


重要ファイルをクラウド保管



Amazon S3 / S3 互換への直接バックアップ

手軽なクラウドストレージを利用して Linux 環境の災害対策を実現



オンプレミスの
ディスク削減

Windows サーバ(RPS)不要

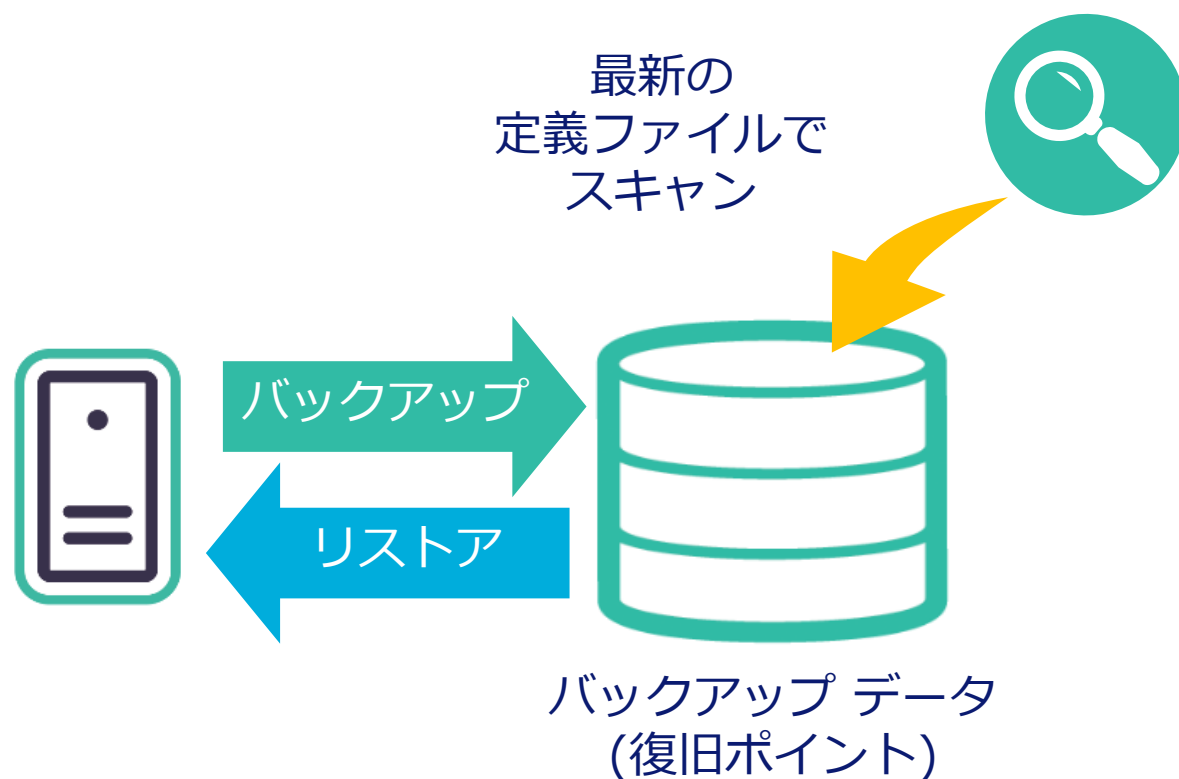
オンプレミスへのBMR也可

※ クラウドストレージからのファイル単位リストア可

3. セキュリティの確保 & ランサムウェアへの対策

バックアップデータの安全性を確認 (アシュアード セキュリティ - マルウェア スキャン)

安全確認が取れたバックアップデータでリストアができる

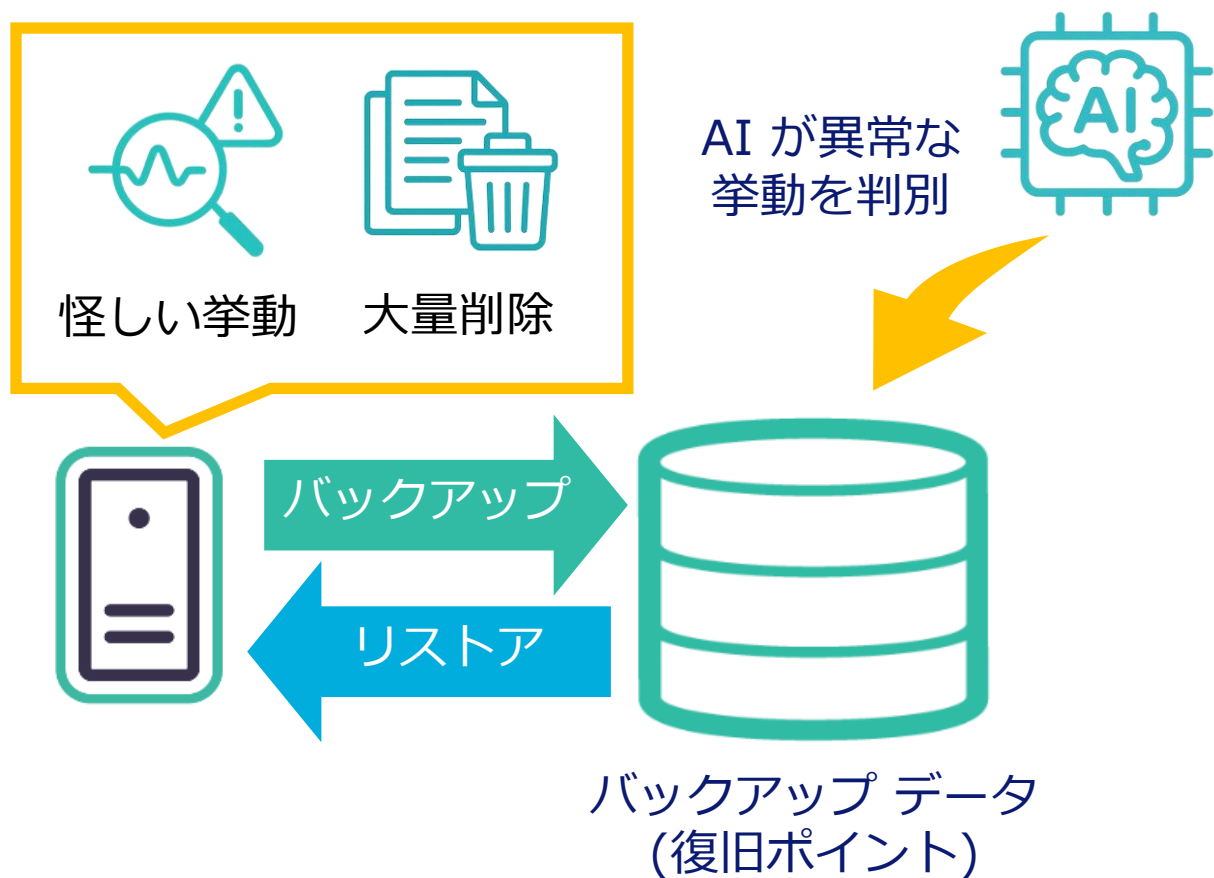


- ✓ バックアップ後に自動、またはリストア前など手動でバックアップデータのウイルススキャンが可能
- ✓ スキャンは安心の Microsoft Defender を利用
- ✓ 最新のセキュリティ定義ファイルでウイルスやワームの侵入検知
- ✓ 増分ファイルのみ対象のスキャン

UDP 11 新機能

バックアップ データを使った異常検出 (アシュアード セキュリティ - AI 異常検出)

本番サーバへの攻撃を、復旧ポイントを介して早期に検出できる



- ✓ バックアップ後にスケジュール実行
- ✓ 暗号化パターン、大量削除、一括リネーム、不審なファイルといった異常な振る舞いを検出
- ✓ AIによる異常検出で、復旧ポイントの潜在的风险を低減

アシュアード セキュリティの構成例

バックアップデータの検査は「プロキシ」が実行

- ✓ 本番サーバ/本番サービスに負荷がかからない
- ✓ 本番サーバのアンチウイルス製品はそのまま利用可

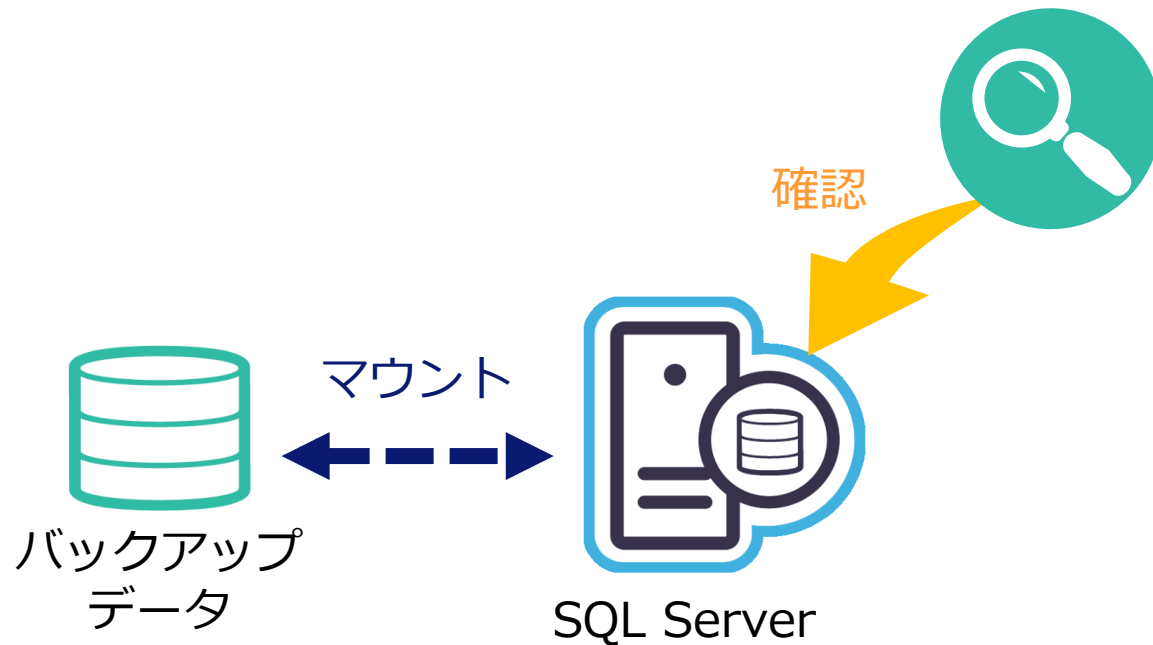


※1 UDP Windows Agent または 復旧ポイントサーバ (RPS) と兼務可

※2 マルウェア スキャンはプロキシ サーバの Microsoft Defender を利用

SQL データベースのバックアップデータの安全性を確認

リストア前にデータベースの内容を確認できるので、無駄なリストアを避けられ、復旧時間を短縮できる



- ✓ バックアップ データを疑似 DB として Microsoft SQL Server にマウント
- ✓ 任意の時点の DB データでマウント可能 (PiTリストア有効時)
- ✓ RPS または ローカルディスクや共有フォルダのバックアップ データを利用可
- ✓ 編集可能な検証用データベースとしても利用可

Arcserve UDP コンソールを多要素認証で保護

管理画面へのログイン方法として多要素認証（MFA）が利用可能に

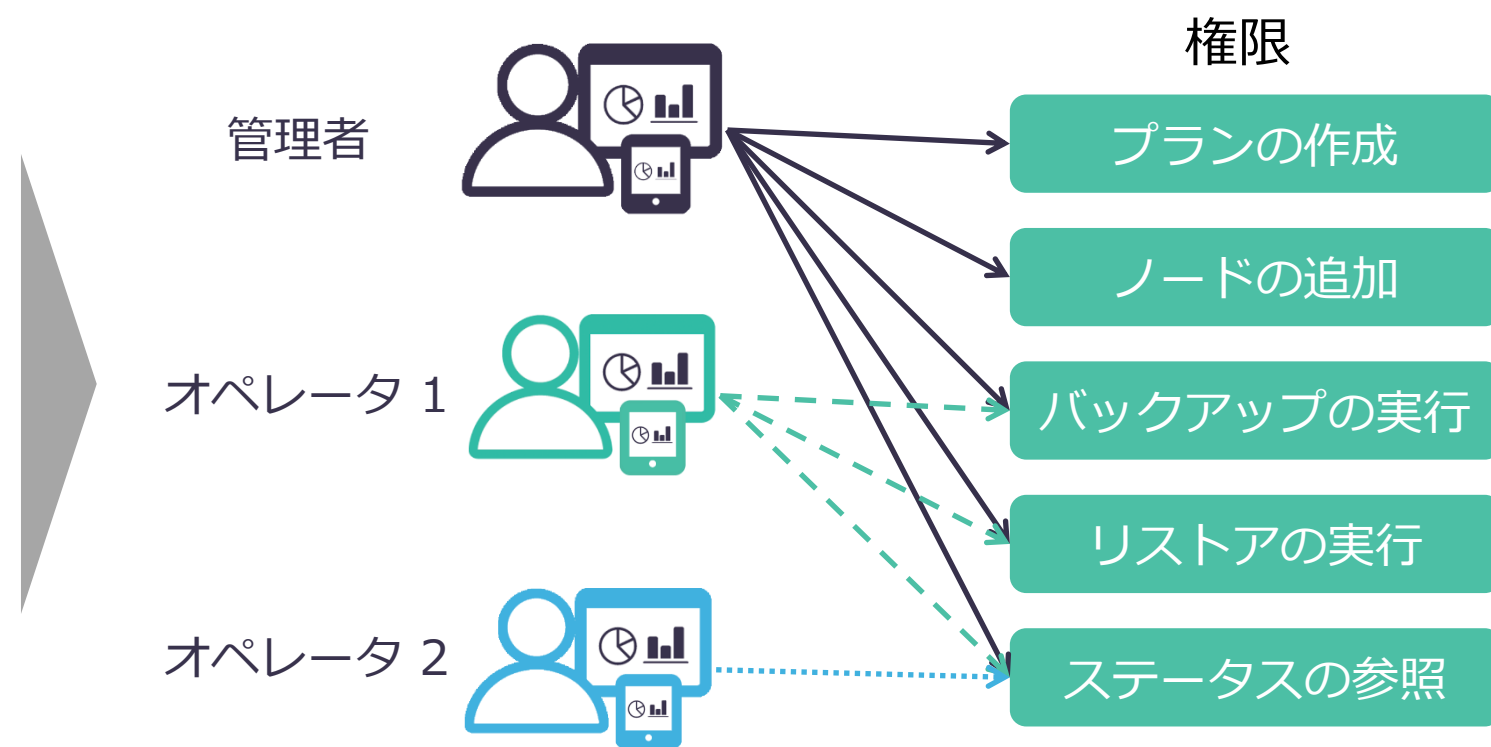
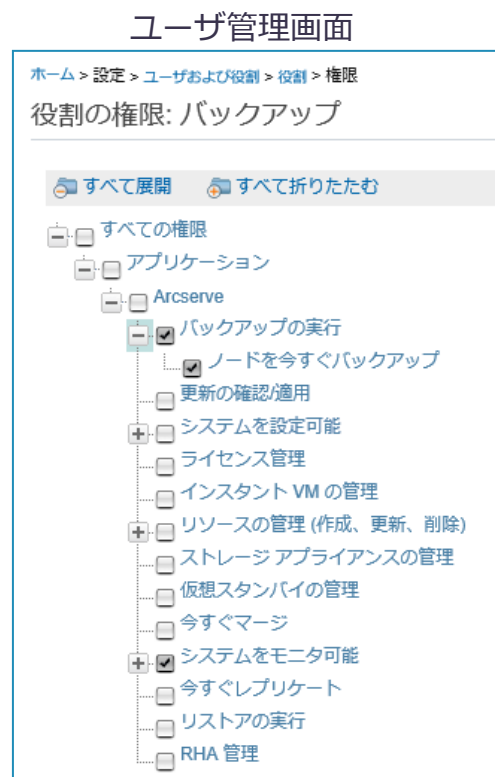


パスワード入力に加えて、確認コードの受信/入力を必要とすることで
不正アクセス リスクを低減

ロールベースアクセス制御 (RBAC) によるセキュリティ強化

こんな時に
便利！

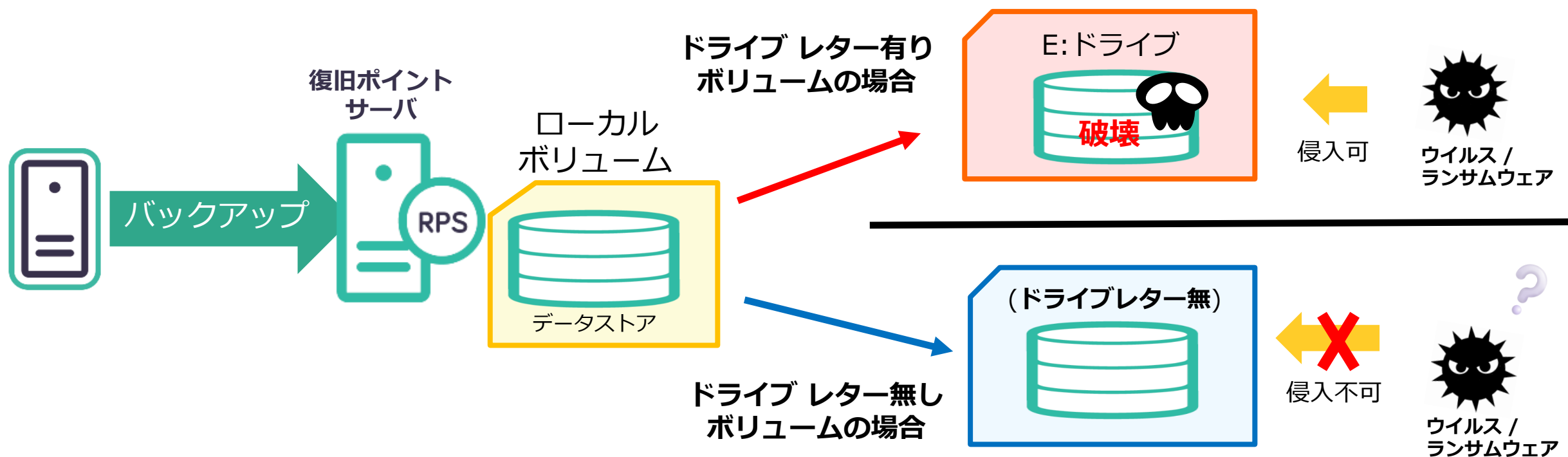
- ➡ 管理者以外にはバックアップ設定を変更させたくない
- ➡ オペレータにはステータス参照だけを許可したい



ユーザごとに操作権限を設定して不正な操作を防止

復旧ポイントサーバ バックアップ データの秘匿

復旧ポイントサーバ（RPS）内のエクスプローラーから見えない領域に
バックアップ データを保管



RPS 内に侵入した攻撃者やランサムウェアがバックアップ データを発見しにくい

復旧ポイントサーバ データストアのイミュータブル化

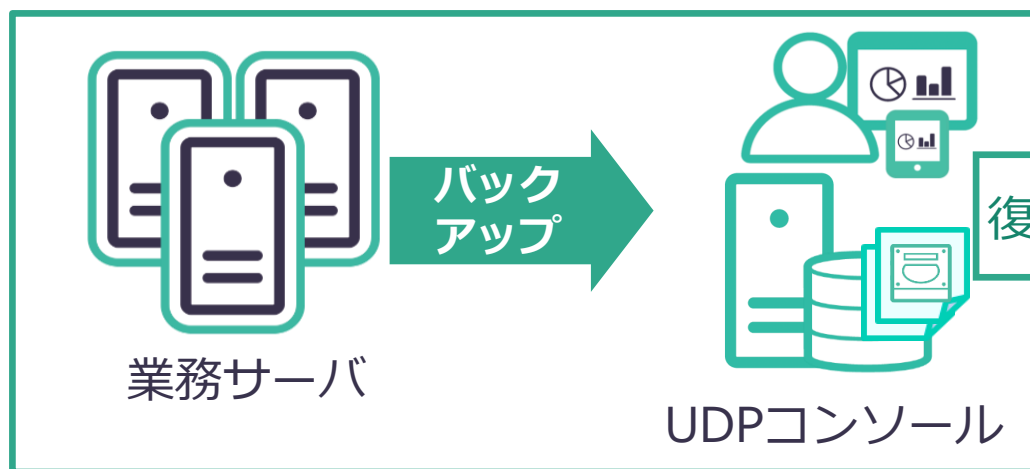
Arcserve CRS シリーズと連携したイミュータブル バックアップで、ランサムウェア等のサイバー攻撃からバックアップ データを保護



オブジェクトロックを活用しランサムウェア対策

「復旧ポイントのコピー」が不変ストレージ（オブジェクト ロック機能）に対応
バックアップ データの改ざんを防止

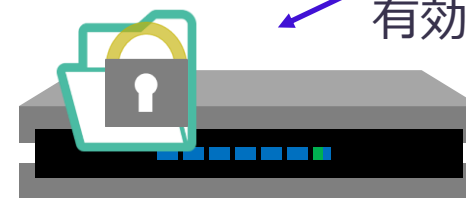
オンプレミス



- Amazon S3
- Wasabi Hot Cloud Storage



オブジェクト ロック
有効のバケット



- Nutanix Objects

法規制やコンプライアンス
などのデータ保持に利用

ストレージ側の設定で
保持期間後の削除も可能

フルイメージを戻して
システム復旧の利用が可

4. ライセンス

ライセンスの課金対象

ライセンスは「**バックアップ対象**」にのみ必要です。
 バックアップ対象ノード数またはバックアップ対象サーバのソケット数のライセンスが必要です。
 Arcserve UDP コンソールおよび 復旧ポイントサーバ (RPS : バックアップ保存先サーバ) に
 ライセンスは不要です。

バックアップ対象



物理サーバ



仮想サーバ



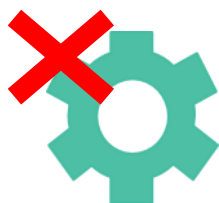
クライアントPC



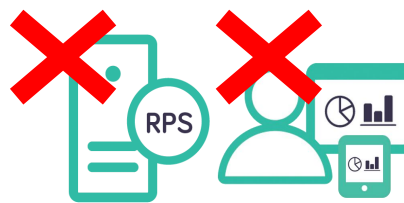
共有フォルダ



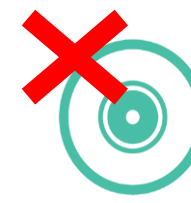
Microsoft 365 / IaaS



特定のオプション



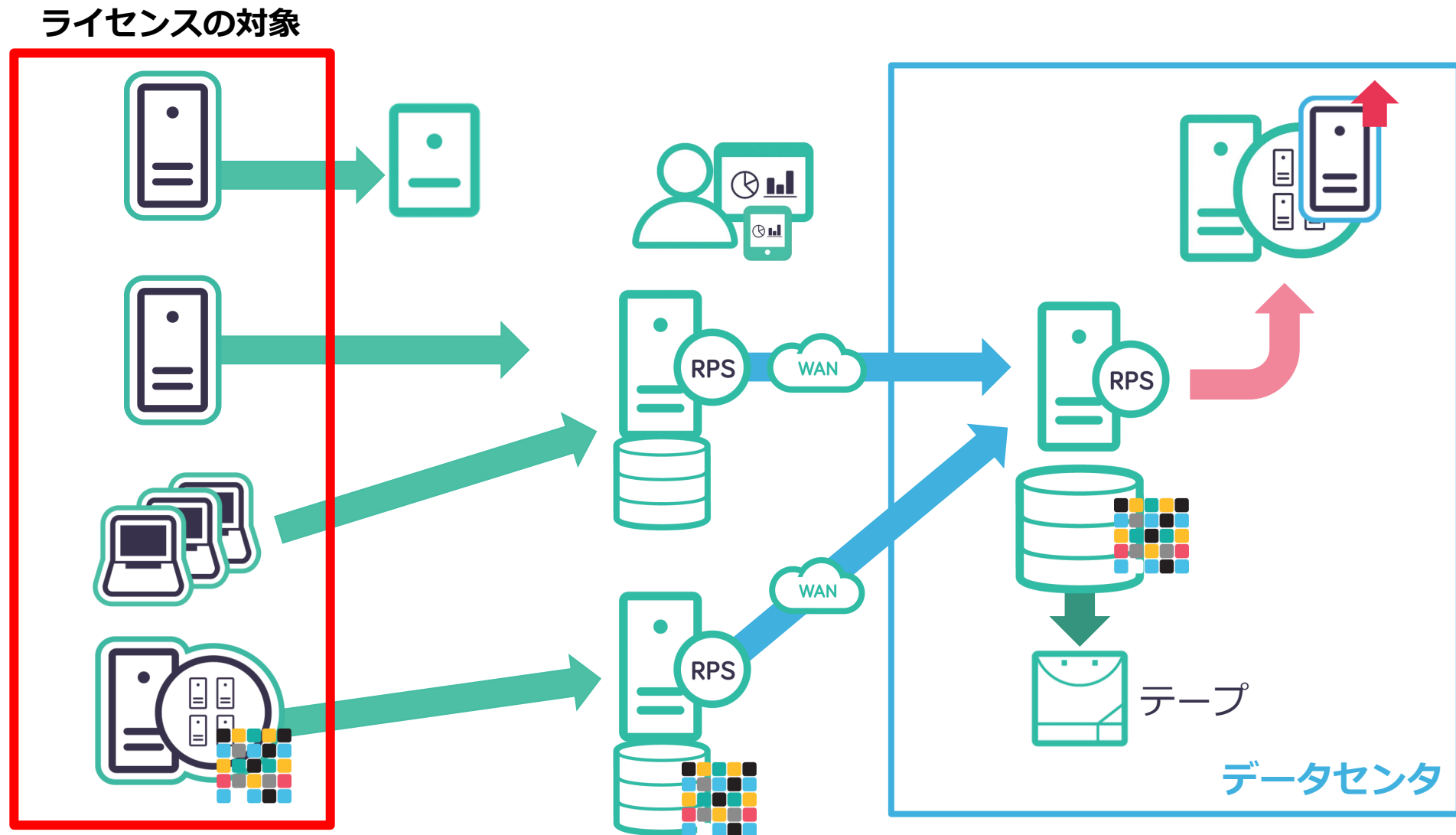
管理コンポーネント



インストール

※ Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ (物理/仮想ホスト) の両方にライセンスが必要です。

機能を追加してもライセンスは変わりません！



Edition の種類 と 含まれる機能

Edition	サーバ用			PC用
	Advanced / for Nutanix	Premium	Premium Plus	Workstation
イメージ バックアップ / 共有フォルダ (CIFS/NFS ※1) のバックアップ	●	●	●	● ※3
バックアップ データの重複排除や転送 (レプリケート)	●	●	●	●
統合管理	●	●	●	●
仮想マシンのエージェントレス バックアップ (vSphere/Hyper-V/AHV/Proxmox VE ※1)	●	●	●	
仮想スタンバイ/インスタントVM	●	●	●	vSphere/Hyper-V のみ
VSS ライタを利用したアプリケーションのオンライン バックアップ	●	●	●	※4
アシュアード リカバリ/SLAレポート	●	●	●	
バックアップ データのテープ保管	●	●	●	●
イミュータブル バックアップ	●	●	●	●
Oracle RMAN との連携バックアップ		●	●	
ハードウェアスナップショット対応 (NetApp / HPE 3PAR / Nimble など)		●	●	
役割ベース (RBAC) の管理		●	●	
アシュアード セキュリティ (マルウェア スキャン / AI 異常検出)		●	●	
クラウド (AWS/Azure/Google Cloud) データ ストア		●	●	●
Arcserve Backup すべての機能 / 全エージェント/全オプションのライセンスが同梱 ※2		●	●	
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製用のライセンスが同梱		●	●	
Arcserve Replication/High Availability のすべての機能のライセンスが同梱 ※2			●	

※1 : Nutanix AHV 上の仮想マシンまたは Nutanix Files のバックアップを行うには Advanced Edition for Nutanix または Premium Edition 以上を購入してください。

※2 : 「すべての機能」とは、日本語の動作要件に記載されている製品（機能）が対象です。

※3 : 共有フォルダのバックアップにはサーバ用ソケット ライセンスが必要です

※4 : Microsoft SQL Server Express Editionのみオンライン バックアップをサポートします。

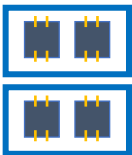
課金方法の選択



サーバ台数 課金
(per Server)

保護対象の物理サーバ台数分の
ライセンスを購入する
(物理サーバに適用)

Advanced



CPU ソケット数 課金
(per Socket)

保護対象サーバのCPUソケッ
ト数分のライセンスを購入す
る(未使用ソケット分は不要)

Advanced/
Premium/Premium Plus



データ容量 課金
(per Terabyte)

保護対象サーバの総データ容
量分のライセンスを購入する

Advanced/
Premium/Premium Plus

注 :
1. Workstation Edition はクライアントPC台数の課金
2. Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive および Teams はユーザ数での課金

価格：サブスクリプションと永久（パーペチュアル）ライセンスから選択可能

サブスクリプション ライセンス (1年メンテナンス付き)			
エディション	サーバ単位 (Server)	ソケット単位 (Socket)	容量単位 (1TB)
Advanced Edition	¥52,000 (¥57,200)	¥89,000 (¥97,900)	¥251,000 (¥276,100)
Advanced Edition for Nutanix	—	¥89,000 (¥97,900)	¥251,000 (¥276,100)
Premium Edition	—	¥172,000 (¥189,200)	¥498,000 (¥574,800)
Premium Plus Edition	—	¥258,000 (¥283,800)	¥744,000 (¥818,400)
永久ライセンス (新規1年メンテナンス付き)			
エディション	サーバ単位 (Server)	ソケット単位 (Socket)	容量単位 (1TB)
Advanced Edition	¥151,000 (¥166,100)	¥258,000 (¥283,800)	¥1,526,000 (¥1,678,600)
Advanced Edition for Nutanix	—	¥258,000 (¥283,800)	¥1,526,000 (¥1,678,600)
Premium Edition	—	¥504,000 (¥554,400)	¥2,539,000 (¥2,792,900)
Premium Plus Edition	—	¥755,000 (¥830,500)	¥4,453,000 (¥4,898,300)

※金額は税抜きで、括弧の中は税込みです。

※メンテナンスはサブスクリプションの場合は3年、5年、永久ライセンスの場合は3年、4年、5年もあります。

※インストール メディアは別売です。

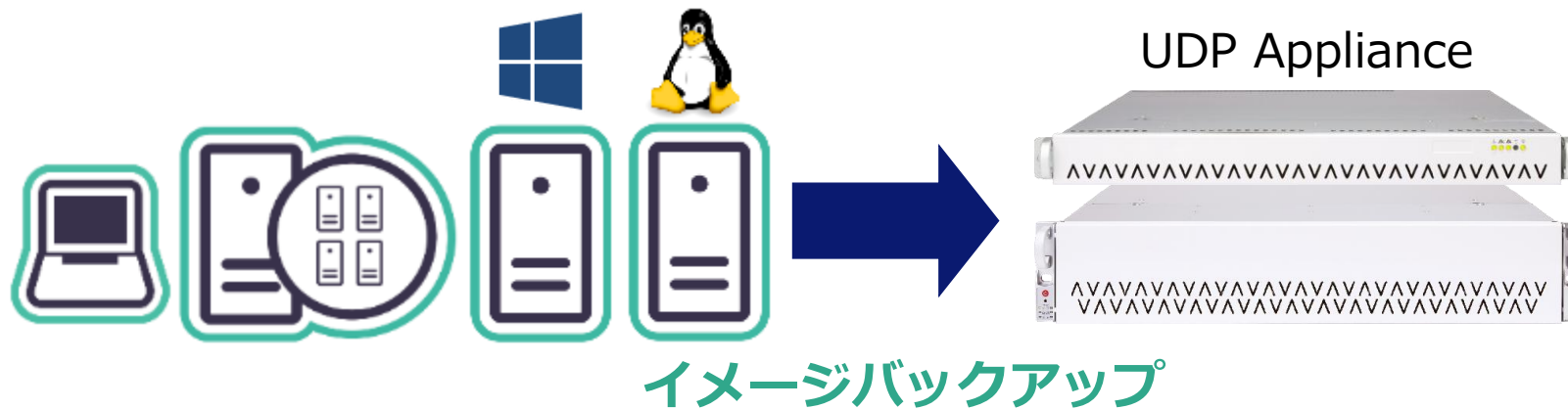
※アカデミック用など本ページに記載のないライセンスの価格は "<https://www.arcserve.com/jp/licensing-options>" を参照下さい。



Arcserve UDP Appliance

バックアップ専用アプライアンスサーバ

Arcserve UDP をプリインストールしたバックアップ専用アプライアンス
内蔵ディスクにバックアップできる限りライセンスが使い放題
中規模・大規模環境のバックアップをより簡単にシンプルに実現





アプライアンスで運用コストを削減

サイジング不要で設置も簡単、大容量ストレージへのバックアップで容量不足の心配無し！

バックアップ
ソフトウェア



バックアップ用
ハードウェア



5年間
サブスクリプション付

Arcserve UDP プリインストール
ライセンスフリー

ハードウェアサイジングが不要

2年目以降の更新費用不要



1U モデル	価格(税込)
9200 v2 (RAID-5: 12TB)	12,595,000 円
9200-6 v2 (RAID-6: 8TB)	10,945,000 円
9220 v2 (RAID-5: 24TB)	16,775,000 円
9220-6 v2 (RAID-6: 16TB)	14,685,000 円

2U モデル	価格(税込)
9400 v2 (RAID-6: 40TB)	26,565,000 円
9420 v2 (RAID-6: 80TB)	35,365,000 円

サポート対応

- ✓ **Arcserve テクニカルサポート**にて窓口対応。
Arcserveでワンストップサービスを提供
- ✓ ハードウェア故障は**オンサイト**（現地訪問）対応が可能
部品交換が必要な場合、現地訪問は問題特定から4時間駆けつけ目標（※1）
- ✓ メンテナンス期間内であれば、Arcserve UDPの**無償アップグレード**が可能
（アップグレード作業はお客様にて実施いただきます）

※1 サービス拠点(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)より30km圏内での目標となります。



※ モデルはいずれも Advanced Edition

上記価格は 2026年 8月28日から有効、旧価格など詳細は” <https://www.arcserve.com/jp/licensing-options>”を参照下さい。

Arcserve 無償ハンズオン セミナー & Web（動画）セミナー

Arcserve Backup

1. 入門編
2. システム復旧編

Arcserve UDP

1. 前編(Agent)
2. 後編(Server)
3. Linux Agent 編

Arcserve Replication/ High Availability

1. 前編 (Replication)
2. 後編 (HA)

お申し込みは

Arcserve セミナー

検索



まで。

株式会社保健同人社様



Arcserve UDP 導入事例 |

> オンプレおよびクラウド環境の 透徹的バックアップと 災害対策を一度に実現

バックアップ容量は約63%減、C to Cサーバー移行でArcserve UDP活用を楽々クリア





ユーザプロフィール

業 種：出版業
会社名：株式会社保樹園本社



株式会社 保樹園同人社

課題

業務拡大による設備の増設に伴い、従来のネットワークインフラ環境のセンター、アラウドストレージと連携したバックアップ運用は、サーバーや業務環境、広域バックアッププロファイルのバージョン設定方法が異なる環境にも対応し、運用の負荷も増加してしまっていた。バックアップは主にデータセンターに集中し、災害に起因しては、データ復元や復旧に時間がかかっていた。

経緯

中期経営計画に従い、資本的なネットワークインフラ環境の刷新にも計画的に着手する間、クラウドバックアップ運用は、オンプレミスサーバーとクラウドサーバーのバックアップ運用をクラウド上で一元化するとともにクラウド上のバックアップ環境での復元も可能となると考え、それを実現できるArcserve UDPを採用した。

導入

同社の全拠点が新しいオンプレミス環境に搭載されたタイルクラウドでArcserve UDPの利用を開始。従来の、クラウド環境の移行が発生したことで、このArcserve UDPのバックアップアダプターを活用して、C to Cサーバー移行を実施した。その方法も、サーバーを構築しCtoCの手順ができたためArcserve UDP利用から移行先を設定して実行するという簡便さだった。

効果

現在、一元化のバックアップ運用と、クラウド上のデータレプリケーションによるBCP対策も実現。また、Arcserve UDPの重複排除機能により、バックアップ容量が4TBから1.5TBへと約63%削減された。スケーラビリティも高くなったため、仮想サーバーにリソースを有効活用することができた。

assured recovery

検索





arcserve Japan合同会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング

購入前のお問い合わせ:

Tel: 0120-410-116 (営業時間: 平日 9:00~17:30)

E-mail: JapanDirect@arcserve.com

Webフォーム: [お問い合わせフォーム](#)

arcserve/ja   

This document could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein. These changes may be incorporated in new editions of this document. Arcserve may make improvements in or changes to the content described in this document at any time.